

**平成28年度**

**教育委員会活動の点検・評価報告書**

平成28年12月

**松阪市教育委員会**

## 目 次

I	はじめに	1
II	松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価	
1	事業評価の方法	2
	松阪市教育ビジョン基本構想図	3
2	各事業の2年間評価、事業年度、決算額一覧表	4～6
3	評価シート	7～54
4	総評	55
III	教育委員会の活動状況	55～56
IV	第三者評価（学識経験者の知見の活用）	
1	第三者評価委員	57
2	第三者評価	57～60
V	おわりに	60

## I はじめに

松阪市教育委員会は、平成19年12月に将来の松阪市を担う子どもたちをはじめすべての市民が暮らしやすい、「質の高い教育・文化にふれあうまちづくり」をめざし、今後10年間の松阪市の教育のあるべき姿を構築する「松阪市教育ビジョン」を策定しました。

松阪市教育ビジョンは、「夢を育み 未来を切り拓く松阪の人づくり」を基本理念とし、誰もが心に抱いている「夢」をかなえていくための道案内を「夢ナビゲーション」と名付け、「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」の3つの子ども像を実現するため、「ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実」「キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実」「市民による、市民のための生涯学習の推進」「個性あふれる文化・芸術の振興」「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」「輝け！松阪！新しい教育の創造」の6つの夢ナビゲーションを策定したものであり、教育委員会は、これに基づき、学校教育、家庭教育、社会教育などの教育機能の充実・連携を図るとともに、市民の文化活動やスポーツ活動の機会の充実と質的向上に努めているところです。

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

そこで、松阪市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様へ説明責任を果たすため、平成19年度の事務事業から「教育委員会活動の点検・評価」（以下、「点検・評価」という。）の対象を「松阪市教育ビジョン」の6つの「夢ナビゲーション」とし、点検・評価を実施し、報告書にまとめ、公表してきました。

今年度点検・評価を行う事業は、28年度に教育ビジョンの改定を行っていることから26年度及び27年度に継続して実施した事業を中心に、48の事務事業を対象として実施しました。

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務〔前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。〕の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 1 事業評価の方法

「夢ナビゲーション」別に各事業の事業目的、事業内容、検討課題、27年度の取組、改善案・方向性と複数年にわたる事業の場合は26年度の取組、進捗度等の点検・評価を2年間分の表にしました。

- 【評価】
- A：目的を達成し、計画どおりに事業を進めることができた
  - B：おおむね、計画どおりに事業を進めることができた
  - C：事業の進め方に改善が必要
  - D：事業規模、内容の見直し工夫が必要

- ※ 事業年度の最終年度が未定の場合については、継続中と表記しています。  
また、1市4町の合併以前に実施されていた事業についての開始年度は平成17年度と表記しています。
- ※ 単年度で完結する事業であっても、その事業が開始された年度がわかっている場合は、その年度を表記しています。

# 基本構想図

## 夢を育み未来を切り拓く松阪の人づくり

- ★松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども
- ★思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども
- ★じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども

### 夢ナビポイント

夢を実現する道の途中では、自らを高めようと精一杯努力したり、時には立ち止まり迷ったり悩んだりするなどの分岐点があります。その一つひとつの分岐点において達成すべきめあてや方向性を**夢ナビポイント**としました。

※夢ナビポイントは、市民の皆さんからパブリックコメントとしていただいた教育に期待する提言を参考としました。

### 夢ナビゲーション

「将来の自分はこうありたい」という「夢」を抱き、その実現に向けて挑戦し続ける人は輝いて見えます。「夢」の実現という「目的地」に到着するまでの道案内を「**夢ナビゲーション**」としました。



# 5

### 夢ナビポイント

明るい生活を支える  
スポーツライフの  
実現

- ① スポーツ・レクリエーション活動を通じた健康づくりの推進
- ② 健康・競技・娯楽としてのスポーツ環境の充実
- ③ 競技スポーツの振興



# 1

### 夢ナビポイント

ドキドキ!ワクワク!  
学びの芽生えを育む  
就学前教育の充実

- ① “キラキラ”笑顔が輝く楽しい教育内容の創造
- ② 新たな子育て支援の充実
- ③ 子どもの成長を支える研修の推進

# 1

# 2

# 2

### 夢ナビポイント

キッチリ!バッチリ!  
学びの基礎を育む  
教育の充実

- ① 確かな学力を育む教育の推進
- ② 豊かな心を育てる「心の教育」の推進
- ③ 一人ひとりを大切にする特別支援教育の推進
- ④ ふるさと松阪に学ぶ教育の推進
- ⑤ 保育園・幼稚園から中学校までのつながりをおこなった教育の推進



# 4

### 夢ナビポイント

個性あふれる  
文化・芸術の振興

- ① 市民文化・芸術活動の創造
- ② 豊かな文化遺産の活用と次世代への継承

# 4

# 3

# 3

市民による、  
市民のための  
生涯学習の推進

### 夢ナビポイント

- ① 生涯学習活動の推進のためのシステムづくり
- ② 青少年の健やかな育ちのサポート
- ③ 市民が集い、学び合える環境の充実
- ④ 家庭・地域・社会における人権教育の推進

# 6

### 夢ナビポイント

輝け!松阪!  
新しい教育の  
創造

- ① 松阪の教育特性を生かした教育改革の推進
- ② 学びを支える教育環境の充実
- ③ 信頼と誇りのもてる学校づくりの推進



## 2 各事業の2年間評価、事業年度、決算額一覧表

### (1)ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実

シート 番号	担当課	事業名	26年度 評価	27年度 評価	事業年度	26年度 決算額 (千円)	27年度 決算額 (千円)
1	学校支援課	外国語指導助手(ALT)事業	A	A	平成17年度～継続中	31,220	29,782
2	学校支援課	学力向上推進サポート事業	B	A	平成26年度～平成27年度	3,227	6,699
3	学校支援課	特色ある学校づくり推進事業	A	A	平成17年度～継続中	16,704	15,520
4	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	平成17年度～継続中	1,120	1,292
5	子ども支援研究センター	教育相談事業	A	A	平成17年度～継続中	3,344	3,463
6	教育総務課	私立幼稚園就園奨励費補助金	B	A	平成17年度～継続中	1,055	26,792

### (2)キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実

シート 番号	担当課	事業名	26年度 評価	27年度 評価	事業年度	26年度 決算額 (千円)	27年度 決算額 (千円)
1	学校支援課	外国語指導助手(ALT)事業	A	A	平成17年度～継続中	31,220	29,782
2	学校支援課	学力向上推進サポート事業	B	A	平成26年度～平成27年度	3,227	6,699
3	学校支援課	特色ある学校づくり推進事業	A	A	平成17年度～継続中	16,704	15,520
4	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	平成17年度～継続中	1,120	1,292
5	子ども支援研究センター	教育相談事業	A	A	平成17年度～継続中	3,344	3,463
7	学校支援課	特別支援教育推進事業	A	A	平成17年度～継続中	54,602	58,822
8	学校支援課	いじめ等対策事業	B	B	平成21年度～継続中	13,040	12,916
9	子ども支援研究センター	教育支援センター推進事業	B	B	平成17年度～継続中	2,338	2,228
10	学校支援課	平成26年度「教育の情報化」推進事業 平成27年度 新たな学びの創造事業	A	A	平成26年度～継続中	17,788	37,092
11	育ちサポート室	育ちサポート推進事業	A	A	平成22年度～平成27年度	14,055	16,986
12	人権まなび課	外国人児童生徒いきいきサポート事業	A	A	平成19年度～継続中	13,476	14,466
13	人権まなび課	外国人児童生徒受入促進事業	A	A	平成22年度～継続中	4,618	4,437
14	給食管理課	学校給食単独調理場備品等整備事業	A	A	平成17年度～継続中	25,497	22,355
15	給食管理課	学校給食センター備品等整備事業	A	A	平成17年度～継続中	18,087	8,914

(3) 市民による、市民のための生涯学習の推進

シート番号	担当課	事業名	26年度評価	27年度評価	事業年度	26年度決算額(千円)	27年度決算額(千円)
16	人権まなび課	人権学習推進事業	B	B	平成19年度～継続中	2,206	1,896
17	いきがい学習課	こどもまつり大会事業	A	A	平成17年度～継続中	1,728	1,712
18	いきがい学習課	青少年健全育成事業	B	B	平成17年度～継続中	6,336	6,434
19	いきがい学習課	新成人のつどい開催事業	A	A	平成17年度～継続中	440	480
20	いきがい学習課	図書館管理運営事業	A	A	平成17年度～継続中	127,971	127,458
21	いきがい学習課	生涯学習振興事業	A	A	平成17年度～継続中	12,597	12,335

(4) 個性あふれる文化・芸術の振興

シート番号	担当課	事業名	26年度評価	27年度評価	事業年度	26年度決算額(千円)	27年度決算額(千円)
22	文化課	市美術展覧会開催事業	B	A	平成17年度～継続中	2,218	2,654
23	文化課	文化芸術団体共催事業	A	A	平成24年度～継続中	174	120
24	文化課	文化センター自主事業	A	A	平成17年度～継続中	9,116	10,733
25	文化課	歴史的建造物公開事業	A	A	平成17年度～継続中	22,461	26,500
26	文化課	文化財保存整備事業補助金	A	A	平成17年度～継続中	247	244
27	文化課	松坂城跡保存整備事業	A	A	平成25年度～継続中	4,100	11,842
28	文化課	文化財センター特別企画展等事業	A	A	平成17年度～継続中	2,610	2,828
29	文化課	松浦武四郎誕生地保存整備活用事業	A	A	平成19年度～平成30年度	7,397	16,484
30	文化課	松浦武四郎記念館特別企画展等事業	A	A	平成17年度～継続中	694	594
31	文化課	指定文化財保存修理事業	A	A	平成24年度～継続中	10,764	5,112

## (5) 明るい生活を支えるスポーツライフの実現

シート 番号	担当課	事業名	26年度 評価	27年度 評価	事業年度	26年度 決算額 (千円)	27年度 決算額 (千円)
32	スポーツ振興課	松阪市スポーツ推進計画策定事業	A	A	平成26年度～継続中	1,086	267
33	スポーツ振興課	全国大会等出場派遣支援事業	A	A	平成17年度～継続中	3,716	4,013
34	スポーツ振興課	スポーツ大会等運営事業	B	A	平成17年度～継続中	1,642	1,989
35	スポーツ振興課	シティマラソン大会事業	A	A	平成17年度～継続中	8,000	8,000
36	スポーツ振興課	スポーツ少年団補助金	A	A	平成17年度～継続中	2,876	2,960
37	スポーツ振興課	中部台運動公園施設整備事業	A	A	平成17年度～継続中	47,313	24,767

## (6) 輝け！松阪！新しい教育の創造

シート 番号	担当課	事業名	26年度 評価	27年度 評価	事業年度	26年度 決算額 (千円)	27年度 決算額 (千円)
38	教育総務課	小学校施設維持修繕事業	A	A	平成17年度～継続中	63,139	74,989
39	教育総務課	小学校管理備品整備事業	A	A	平成17年度～継続中	29,832	29,281
40	教育総務課	地域材活用学校環境整備事業	A	A	平成17年度～継続中	7,749	8,320
41	教育総務課	粥見小学校校舎改築事業	-	A	平成27年度～平成30年度	0	1,549
42	教育総務課	中学校施設維持修繕事業	A	A	平成17年度～継続中	63,623	35,153
43	教育総務課	中学校管理備品整備事業	A	A	平成17年度～継続中	16,471	14,673
44	教育総務課	鎌田中学校校舎改築事業	A	A	平成23年度～平成32年度	876,920	384,560
45	教育総務課	幼稚園施設管理運営事業	B	A	平成17年度～継続中	232,172	227,149
46	教育総務課	幼稚園施設維持修繕事業	A	A	平成17年度～継続中	5,382	6,832
47	教育総務課	幼稚園管理備品整備事業	A	A	平成17年度～継続中	5,684	5,586
48	学校支援課	郷土の偉人に学ぶ教育推進事業	A	A	平成23年度～継続中	2,021	1,054

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		1
						平成26年度	平成27年度	
事業名	外国語指導助手(ALT)事業				評価	A		A
担当課	学校支援課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	31,220 千円	平成27年度決算	29,782 千円	平成28年度予算	37,429 千円		
事業の目的	グローバル化の進展に伴い、外国との情報や文化の交流が活発になされるようになり、世界がより身近になってきた。明日の松阪を創っていく子どもたちに異文化理解・自文化理解、コミュニケーション能力・自己表現力などの資質や能力を培う。							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導助手(ALT)を学校・園に派遣し、外国語活動および外国語教育の資の向上を図る。</li> <li>・小中学校における外国語教育に関わる教職員対象の研修会や担当者会を開催し、指導力の向上を図る。</li> </ul>							
複数年にわたる事業	進捗度等	・ALTの質の向上を図るため、民間派遣契約について見直した。						
	前年度の改善案方向性	・現在、9人のALTを配置しているが、小学校英語教育が拡充される新学習指導要領が全面実施となる平成32年度に向けて年次計画をたてる。						
	26年度の取組	・JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)により1人、市直接雇用により3人、民間派遣契約により5人、計9人のALTを幼稚園に14回、小学校に764回、中学校に850回、計1,628回派遣した。						
検討課題	平成32年度の新学習指導要領全面実施において、現在、小学5年生から行っている外国語活動が小学3年生からに拡充される。小学校中学年においては音声に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を、高学年では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎的能力を養い、中学校英語教育へと円滑に繋げていくことが求められている。小中の連携を通し、生きた語学力を身につけていくため、指導助手を増員し、外国語教育を支援する体制の充実が課題となっている。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)により1人、市直接雇用により3人、民間派遣契約により5人、計9人のALTを幼稚園に16回、小学校に791回、中学校に804回、計1,611回派遣した。</li> <li>・各学校にALT担当教員を決め、担当教員を中心に指導力を高める研修に取り組んだ。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイティブスピーカーに限らず、英語に堪能な者(英語科教職員免許やTOEIC、TOEFLなど一定の英語力を有する日本人も含む)を含め、優れた人材を計画的・継続的に確保していくなど、費用対効果の高い方策を模索する。</li> </ul>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		2			
		平成26年度		平成27年度		評価		B A			
事業名	学力向上推進サポート事業										
担当課	学校支援課	事業年度	平成26年度～平成27年度								
予算・決算	平成26年度決算	3,227 千円	平成27年度決算	6,699 千円	平成28年度予算	- 千円					
事業の目的	幼稚園・小学校・中学校と家庭や地域が連携し、就学前から小学校・中学校までの発達段階に応じて「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」を図ることをめざす。										
事業の内容	全国学力・学習状況調査を活用し、その分析結果から目標や課題の設定を行い、それらの解決・達成に向け検証改善サイクルを確立し、保護者、地域住民などとともに課題解決に向けた取組を進める。										
複数年にわたる事業	進捗度等	・計画的に研究実践を進めるため、実践校区指定の年次計画を立てた。									
	前年度の改善案方向性	・全国学力・学習状況調査の分析結果から松阪市の子どもたちの課題を整理し、解決に向けた方針をリーフレット等において家庭や地域に発信し、基本的な生活習慣、学習習慣の確立などの取組を全市的に進める。									
	26年度の取組	・嬉野中学校区と東部中学校区において授業・保育改善の取組を進め、発表会を開催した。 ・「本居宣長さんの教え、5つのチャレンジ」を作成し、全市的な取組として進めた。									
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松阪市における平成26年度全国学力・学習状況調査の結果は、小学校国語算数A問題B問題、中学校国語数学A問題B問題、全ての領域で全国の平均正答率を下回るという大変厳しい結果であった。</li> <li>・この事実を真摯に受け止め、全国学力・学習状況調査結果をしっかりと今まで以上に活用しながら、松阪市教育委員会、学校、家庭、地域が一体となって、それぞれの役割を果たしながら、松阪市の児童生徒の学力の向上に取り組んでいかなければならない。</li> </ul>										
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三雲中学校区と飯南中学校区において、幼小中の連携教育の実践研究を進め発表した。</li> <li>・他の中学校区においても、先進地の視察等を行い授業改善を進めた。</li> <li>・松阪市標準学力調査(小4、小5、中1、中2)を実施した。</li> <li>・学校(園)に授業力向上アドバイザーと教育アドバイザーを計134回派遣した。</li> <li>・「本居宣長さんの教え、5つのチャレンジ」を作成し、全市的な取組として進めた。</li> </ul>										
今後の方向性・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度から平成27年度にかけ、学力向上に向け様々な取組を導入した。学校(園)の現場において、松阪市標準学力調査の活用等について指導徹底し、取組が定着するするための期間を設けることが、事業効果をより高めるものとする。</li> <li>・優れた実践者や先進地の実践について、教職員が直接触れる機会を充実する。</li> <li>・松阪市標準学力調査の対象を拡大し、授業改善に生かしていく。</li> </ul>										

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		3
						平成26年度	平成27年度	
事業名	特色ある学校づくり推進事業				評価	A	A	
担当課	学校支援課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	16,704 千円	平成27年度決算	15,520 千円	平成28年度予算	15,420 千円		
事業の目的	各学校(園)において、幼児児童生徒や地域の実態に即した特色ある教育・学校づくりを推進するための創意工夫に満ちた特色かつ魅力ある教育活動を支援し、生きる力の育成を図る。							
事業の内容	<p>学習指導要領、幼稚園教育要領に基づき、松阪市教育ビジョンの実現を図るための特色ある教育活動を全ての学校(園)で展開し、様々な体験活動を通して生きる力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産活動、体験活動、国際理解教育、環境教育等の実施</li> <li>・授業力向上のための講師招聘、読書活動の充実</li> <li>・郷土学習や地域との交流・ボランティア活動等の推進</li> </ul>							
複数年にわたる事業	進捗度等	幼児児童生徒や地域の実態に即した教育活動を毎年行うことができ、幼児児童生徒の生きる力の育成、教職員の指導力向上に大きく寄与している。						
	前年度の改善案方向性	地域連携型教育の推進体制を強化し、長期的視野に立った計画性、学校のカリキュラム上の関連性をもっと意識した取組をさらに進め、保護者・地域から信頼される学校(園)づくりを推進する。						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校(園)では、前年度の取組の継続性を重視し、事業内容の改善に繋げている。</li> <li>・地域や幼児児童生徒の実態に即し、めざす子ども像を明確にし、創意・工夫に満ちた特色ある活動を行い、学校教育目標の達成と松阪市教育ビジョンの実現化を図った。</li> </ul>						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学校(園)において、事業の目的に応じた取組を進めているが、さらに、この事業を通じて、家庭や地域と連携していくことが重要となる。</li> <li>・学校支援ボランティアなど地域の人材をはじめとする教育資源を活用し、各学校(園)の実態に即した教育活動を充実させていく必要がある。</li> </ul>							
27年度の取組	<p>各学校(園)で地域や幼児児童生徒の実態に即し、めざす子ども像を明確にし、創意・工夫に満ちた特色ある活動を行い、学校教育目標の達成と松阪市教育ビジョンの実現化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【幼稚園】どろんこ体験、手話、サッカー教室、紙芝居、自然観察、等</li> <li>【小学校】ブックトーク、和楽器体験、農業体験、昔の遊び体験、等</li> <li>【中学校】職場体験学習、人権学習、福祉学習、平和学習、情報モラル、等</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	地域の教育資源の活用や個に応じた指導など各学校(園)の実態に応じた教育活動が今後も重要となる。そのため、地域との協力体制の強化や、長期的視野に立った計画性、学校のカリキュラム上の関連性をもっと意識した取組をさらに進め、保護者・地域から信頼される学校(園)づくりを推進し、松阪市教育ビジョンの実現に向けていく。							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号		4
					平成26年度	平成27年度	
事業名	教職員研修事業				評 価	A	A
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～継続中				
予算・決算	平成26年度決算	1,120 千円	平成27年度決算	1,292 千円	平成28年度予算	1,454 千円	
事業の目的	保育士及び教職員の指導力向上を図ることにより、幼児児童生徒の園・学校生活での満足度を高め、地域・保護者の信頼を得る。						
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士及び幼稚園・小中学校の教職員等を対象に、今日的課題やニーズに沿った内容で、日常の保育教育実践や研究、あるいは保育教育実践上の問題解決に役立つ研修の場を提供する。</li> <li>・教科・領域指導研修、教育課題別研修、専門研修、教育講演会等(全35講座)</li> </ul>						
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	平成23年度より、保・幼・小・中の連携を大事にする視点から、前年度までの幼稚園・小中学校教職員対象の「教職員研修事業」と、保育士及び幼稚園・小学校教職員対象の「乳幼児教育研修事業」を統合し、本事業に一本化して実施している。					
	前年度の改善案方向性	講座アンケート結果等をもとに、ニーズに応じた魅力ある講座構築に努めるとともに、講座案内チラシやセンターだより、ホームページ等で、掲載内容・方法を工夫した研修参加への啓発を行う。					
	26年度の取組	講座内容をもとに講座の区分を設定することで、受講する保育士や教職員がより自分のニーズに合った講座選択ができるようにした。					
検討課題	個人の意識や学校事情等により、講座の受講状況に差が見られる。保育士や教職員が自らの専門性を高めるため、自主的・主体的に学び続けることへの意識向上を図れるよう、さらなる取組が必要である。今後もニーズに合った研修が開かれているか、参加体制などについて、常に検証を進めていく。						
27年度の取組	講座の区分を「教科・領域指導研修」、「今日的課題別研修」、「専門研修(担当者の専門領域について学ぶ)」とするとともに、実技や実習、ワークショップ型等のより実践的な研修方法を重視した研修講座の構築を行い、35講座を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・延受講者数 3,027人</li> <li>・参加者の受講満足度 98%</li> </ul>						
今後の方向性・改善案	松阪市における今日的課題や講座アンケートの結果等を分析し、保育士や教職員のニーズに合ったより実践的な研修方法を重視した講座構築に努めていく。また、講座案内のチラシやセンターだより、ホームページ等で、講師の経歴や講座内容を紹介する等の工夫を行い研修講座への参加啓発を行っていく。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号		5
					平成26年度	平成27年度	
事業名	教育相談事業			評価	A	A	
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～継続中				
予算・決算	平成26年度決算	3,344 千円	平成27年度決算	3,463 千円	平成28年度予算	3,553 千円	
事業の目的	子どもたちの健やかな成長を願い、心や生活上で悩みを抱えた幼児児童生徒及びその保護者・教職員等関係者への相談を行うことにより、個々の課題解決に向けての歩みを支援する。						
事業の内容	<p>幼児児童生徒の生活や心の問題について、それぞれの状況やニーズに応じた相談を実施し、子どもや保護者・教職員等への支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談…所員の応対による相談と電話による相談</li> <li>・カウンセラー相談…臨床心理士によるカウンセリング</li> </ul>						
複数年にわたる事業	進捗度等	相談支援をより有効的に進めるため、平成23年度から、「教育相談事業」と平成17年度から開始した専門家による「心のカウンセラー相談員配置事業」の相談事業を統合し、本事業に一本化した。					
	前年度の改善案方向性	カウンセラー相談の回数増等、より相談者のニーズに応じた相談しやすい体制の充実を図る。各種研修会や担当者会等への積極的な参加により、教育相談担当者の力量アップを図る。					
	26年度の取組	カウンセラー相談の回数増、土曜相談時間の拡大、夕方相談枠の設定により相談者のニーズに応じた相談体制づくりを進めた。(カウンセラー相談 144回実施)					
検討課題	<p>効果的な相談支援を進めていくために、相談申込み時の早期対応や、継続的・定期的な相談が実施できるよう、体制の充実を図っていく必要がある。</p> <p>子どもたちの抱える心の課題やその背景は、複雑・多様であり、専門的な視点からの見立てや支援を必要とするケースが増加していることから、担当者の力量を高めるとともに、カウンセラーとの連携を密にして、適切な相談支援を進めていく必要がある。</p>						
27年度の取組	<p>専門家への相談希望が多いことから、教育相談担当者とカウンセラーの連携をより密にすることに配慮しながら、支援を進めた。また、遊戯療法の用具等、環境面の充実を図った。</p> <p>相談のべ件数 1,082件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談 594件(面接相談274件、電話相談320件)</li> <li>・カウンセラー相談 488件、165回実施</li> </ul>						
今後の方向性・改善案	相談者のニーズや土曜授業を実施していくことを考慮して、「カウンセラー相談の回数増」「夕方相談枠の実施」等、相談体制の充実を図るとともに、引き続き、各種研修会や担当者会等へ積極的に参加することにより、教育相談担当者の力量アップを図る。						

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】				番号		6
						平成26年度	平成27年度	
事業名	私立幼稚園就園奨励費補助金				評 価	B	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	1,055 千円	平成27年度決算	26,792 千円	平成28年度予算	38,010 千円		
事業の目的	公立幼稚園未整備地域や就学前教育の充実のため、幼稚園教育の振興と保護者の経済的負担の軽減を図ることを目的とする。							
事業の内容	市内に住所を有し、子ども・子育て支援法に基づかない私立幼稚園に通園する園児の世帯の所得状況に応じて補助金額を計算し、「入園料」「保育料」を減免している私立幼稚園に対して補助を行う。							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	・平成27年度より国の基準に合わせた補助金要綱を制定した。						
	前年度の改善案方向性	・三重県下の市町に合わせ、国基準に合わせていく協議を行った。						
	26年度の取組	・平成27年度より、国の制度に合わせ、非課税世帯だけであった補助対象者を、課税世帯まで枠を広げるための要綱の改正を行った。						
検討課題	平成26年度に対し補助対象者が増加したため、事務量もかなり増加したが、子ども・子育て支援新制度に加入した私立幼稚園に対しては適用されないため、市内2園の私立幼稚園の加入の方向性を見据えシステム導入は慎重にしなければならない。							
27年度の取組	平成27年度より、国の制度に合わせ、非課税世帯だけであった補助対象者を課税世帯にも枠を広げることにより、多くの世帯が対象となった。							
今後の方向性・改善案	私立幼稚園に通園する世帯の経済的負担を軽減するため継続していくが、申請時の負担もなくなっていくため、申請方法についての簡素化を図っていく。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		7
						平成26年度	平成27年度	
事業名	特別支援教育推進事業				評価	A	A	
担当課	学校支援課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	54,602 千円	平成27年度決算	58,822 千円	平成28年度予算	80,348 千円		
事業の目的	<p>小中学校において障がいのある児童・生徒に対し、学校生活上の介助や学習活動上のサポートを行う「学校生活アシスタント」を必要な学校に配置し、障がいのある児童生徒への支援を充実し、インクルーシブ教育の推進を図る。</p>							
事業の内容	<p>特別支援学級や通常の学級に在籍する重度障がいやLD、ADHD、高機能自閉症等の特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践や生活面で人的支援を行う「学校生活アシスタント」を配置し、適切な指導及び支援を実施する。</p>							
複数年にわたる事業	進捗度等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、新市に合併する前から行っている。</li> <li>・平成15年度に介助員の配置としてスタートし、平成19年度以降は、「学校生活アシスタント」と改名し、事業を展開している。</li> </ul>						
	前年度の改善案方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細やかな支援体制を確立するためには、「学校生活アシスタント」の量的充実も重要であるが、質的向上も重要となる。</li> <li>・学校生活アシスタント研修会を充実し、支援の質の向上を図っていく。</li> </ul>						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細やかな支援体制を確立するため、学校支援アシスタントの数を平成25年度の54名から平成26年度は62名と増員した。</li> <li>・育ちサポート室の室長等を講師に招き研修会を2回実施し、支援の質の向上を図った。</li> </ul>						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級在籍児童生徒数が平成20年度180名であったのに対し、平成27年度は316名と増加し、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒数も年々増加傾向にある。</li> <li>・子どもの実態や保護者の願いも多様化しているため、個に応じた支援のあり方も多岐にわたってきている。</li> <li>・このような学校の実情に応じて「学校生活アシスタント」を配置し、特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズを把握し、一人ひとりに応じた支援体制を確立し、学校生活や学習上の困難を改善していく必要がある。</li> </ul>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や育ちサポート室と連携を図り、必要とする学校の状況を把握しアシスタントを配置した。</li> <li>・アシスタント研修会を実施し支援の質の向上を図った。子どもを理解・支援するに当たっての留意点等の講演とグループに分かれての意見交流を4月と10月に行った。</li> <li>・各学校においても、学校長等による指示・アドバイスにより、障がいのある児童・生徒への支援の充実を図った。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>支援の充実には、人数の確保、支援の質の向上が大切である。支援の必要な子どもの数は増加し、支援の内容は多様化してきている。医療的な支援や看護師なども必要となっている。学校と家庭、関係機関と綿密な連携を図り、育ちサポート室、通級指導教室も含め、個に応じた支援のあり方を求め、きめ細やかな支援体制を確立する必要がある。</p>							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		8
						平成26年度	平成27年度	
事業名	いじめ等対策事業				評 価	B	B	
担当課	学校支援課	事業年度	平成21年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	13,040 千円	平成27年度決算	12,916 千円	平成28年度予算	13,623 千円		
事業の目的	<p>児童生徒の悩みやストレス等を早期に発見し、心のケアを行うとともに課題の解消に向けた取組を支援する。 また、児童生徒の実態を適時適切に把握し、いじめや不登校の未然防止に努めるとともに、指導の充実を図る。</p>							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の相談活動をつなげるため、小中兼務型相談員(ハートケア相談員)を中学校区を単位に派遣する。</li> <li>・学級満足度尺度調査(Q-U)を実施し、学校生活の基盤となる学級の実態を把握し、指導に生かす。</li> <li>・司法福祉相談を実施し、指導困難な事例について、対応を図る。</li> <li>・カウンセリングマインド向上研修(中学校養護教諭対象)を実施する。</li> </ul>							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	ハートケア相談員を複数年、同一の相談員を配置することで、児童生徒だけでなく、保護者にも安心感を与え、小中連携にも効果をあげている。						
	前年度の改善案方向性	Q-Uの分析について研修をさらに深め、個々の児童生徒の実態把握や、学級の状態を把握することにより、いじめや不登校を早期に発見するとともに、早期対応に役立てていく。						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハートケア相談員8名を7中学校24小学校に配置し、年間5,642件の相談を受けている。</li> <li>・Q-Uは44校(児童生徒数9,479人)で実施し、いじめの未然防止や学級づくりに活用している。</li> </ul>						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暴力行為等は減少し、落ち着いてきているが、不登校児童生徒数が増加傾向にある。</li> <li>・不登校児童生徒数が増加している要因について分析し、学校生活に対して不適応感を感じている子どもたちへの支援体制を充実するとともに、子ども支援研究センターや育ちサポート室等の関係機関と密接に連携し、チーム支援を行っていくことが重要となってきている。</li> <li>・いじめ問題について、社会性を育むなど未然防止に努めるとともに、積極的に早期発見し、早期対応に努め、些細ないじめも許さない学級づくりを更に進めていく必要がある。</li> <li>・情報モラルの指導を充実し、インターネット上でのトラブルを減少させていく必要がある。</li> </ul>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハートケア相談員8名を7中学校24小学校に配置し、年間5,856件の相談を受けている。</li> <li>・Q-Uは43校(児童生徒数9,646人)で実施し、いじめの未然防止や学級づくりに活用している。</li> <li>・カウンセリングマインド向上を図るため、同志社大学教授を講師に招き、事例検討会を行っている。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>各学校ではQ-U等を活用し、問題行動の未然防止をめざして学級集団づくりを進め、暴力行為等の減少には効果が現れてきているが、不登校児童生徒数は、平成24年度以降、増加傾向に転じている。近年、特別支援学級在籍の児童生徒数をはじめ、学校集団生活を行う上で個別の支援を要する児童生徒の数は増加の一途を辿っている。不登校児童生徒数の減少のため、ソーシャルスキル等を身につけ社会性を育むとともに、相談体制や支援体制を充実することが重要となっている。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		9
						平成26年度	平成27年度	
事業名	教育支援センター推進事業				評価	B	B	
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	2,338 千円	平成27年度決算	2,228 千円	平成28年度予算	2,352 千円		
事業の目的	不登校児童生徒個々の状態に応じた支援を行うことにより、人間関係の改善と児童生徒の自立を促し、学校復帰を図る。							
事業の内容	<p>教育支援センター「鈴の森教室」「うれしの教室」において、不登校児童生徒への指導・支援を行う。通室指導や保護者・関係者への教育相談を実施し、学校復帰や出席日数の改善を図り、個々の状態に応じた支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通室指導、体験活動</li> <li>・保護者の会、担任会、スクールカウンセラー会議</li> <li>・不登校相談、学校訪問、事例検討会</li> </ul>							
複数年にわたる事業	進捗度等	異なる雰囲気を持つ二つの教室の存在の利点を生かした運営を行うことにより、松阪市、多気町、明和町地域の不登校児童生徒が、自分の状態に合った教室を選択でき、より安心して過ごせる居場所を求めやすくなっている。						
	前年度の改善案方向性	不登校への理解や対応等について学ぶ機会の充実を図り、通室生の状況に合わせた教室運営の見直しも継続的に行っていく。指導員が各種研修会等に積極的に参加し、力量を高めるとともに、効果的な支援の方向性を探っていく。						
	26年度の取組	二つの教室で、相談や通室指導を通して関わった児童生徒の改善率については、微増微減を繰り返している。(平成17年度51%→平成26年度64%)						
検討課題	<p>周囲との人間関係が築きにくい児童生徒が増加している。教室での小集団生活の中での関わりから、幅広い関わりへ繋げていくためのスキルを身に付けていくための工夫が必要である。</p> <p>不登校児童生徒の状態や支援の方向性について、保護者や学校と緊密な情報交換を行い、共通理解を図りながら、それぞれの立場での関わりを重ねていくとともに、適切な保護者支援や学校との円滑な連携に向けた取組をさらに進めていく必要がある。</p>							
27年度の取組	<p>両教室において、通室や相談で関わった児童生徒96人のうち、学校復帰や出席日数の増加で改善が見られた児童生徒は63人であった。(改善率65.63%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通室児童生徒数 36人、通室延べ人数 1,752人</li> <li>体験活動(宿泊体験、山登り等) 7回</li> <li>・保護者の会 3回、担任会 3回、スクールカウンセラー会議 1回</li> <li>・相談延べ件数 1,752件(面接1,183件、電話569件)、学校訪問 260回</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>指導員間の細やかな情報交換により、児童生徒個々の状態についての共通理解をもとに、日々の通室指導の中で、個別対応などの必要な関わりを計画的・継続的に行うようにする。</p> <p>通室生への適切な支援について、定期的な学校訪問や「担任会」等により、担任や学校関係者との連携をさらに強化する。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		10
						平成26年度	平成27年度	
事業名	平成26年度 「教育の情報化」推進事業 平成27年度 新たな学びの創造事業				評価	A	A	
担当課	学校支援課	事業年度	平成26年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	17,788 千円	平成27年度決算	37,092 千円	平成28年度予算	48,969 千円		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが情報機器を活用して、主体的、積極的、協働的に学習活動に取り組むことをめざす。</li> <li>教員のICT活用能力、指導力を高め、情報機器を活用した授業が展開されることにより、子どもたちの学習意欲の向上、学力の向上をめざす。</li> <li>ICT教育にかかわる実践や研究のために、教育委員会の支援体制が充実することをめざす。</li> </ul>							
事業の内容	<p>松阪市教育ビジョン「学びの世界が広がる情報教育の推進」の実現をめざすとともに、「教育の情報化」先進都市として全国に発信していくため、学校のICT教育環境を整備する。</p> <p>平成23年度「フューチャースクール推進事業」により導入した三雲中学校の現環境を維持するとともに、平成26年度に導入した殿町中学校、飯高東中学校におけるタブレットPCを初めとしたICT環境の構築を進める。</p> <p>これらの環境をよりよく活用し、支援していくために、ICT支援員2名を学校に派遣する。</p>							
複数年にわたる事業	進捗度等	三雲中学校、飯高東中学校、殿町中学校において、システムや機器類の構築を継続的に進めつつ、協働学習などの実証研究の取組を進めている。また、学校の取組として研修体制も確立されてきている。						
	前年度の改善案方向性	生徒の学習意欲や学力の向上をめざし、実証研究を進めていく。 教職員の研修体制を支援し、意欲的な実証研究が行われるようサポートしていく。						
	26年度の取組	連携事業である総務省「フューチャースクール推進事業」とともに3カ年の研究委託期間が終了し、平成26年度からは市の事業として「教育の情報化」推進事業を立ち上げ、研究推進を継続した。						
検討課題	<p>国の施策として平成32(2020)年に一人1台のタブレットPCを配備することが方針として示されており、松阪市独自の取組を進める上で、どのように予算を確保しつつ、どのように各校へ展開していくのかが重要な課題となる。</p> <p>費用対効果も充分考えながら、全国でも先進的な取組を財産として、教育の活性化にどのように生かしていくかを具体的に考えるとともに、本事業の成果や課題を踏まえ、他の中学校や小学校の情報教育のあり方についても、検討を進めていく。</p>							
27年度の取組	<p>主体的・協働的な学びを通じて、子どもたちの学習意欲の向上や学習内容の理解が深まるなどの効果が表れてきている。導入3校における研究発表会では、教育委員会と学校とが連絡・連携を密にして、現場の意見や状況を把握しながら、情報機器を活用した授業づくりにおける学力の向上などの研究成果を発信した。</p>							
今後の方向性・改善案	<p>平成23年度からの研究により、事業成果は多く、授業における活用事例も多く示すことができ、この取組に対する視察が相次ぐなど、全国的にも注目されている。</p> <p>今後も、有効性や効果の検証を踏まえながら、教育の情報化における取組を継続的に行っていきたい。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号		11	
					平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
事業名	育ちサポート推進事業			評価	A		A	
担当課	育ちサポート室	事業年度	平成22年度～平成27年度		A		A	
予算・決算	平成26年度決算	14,055 千円	平成27年度決算	16,986 千円	平成28年度予算	千円		
事業の目的	<p>社会が急激に変化する中で、子どもたちが安心して成長できる、また、子どもたちを安心して育てられる環境の整備を目的とする。特に、今日、子どもの発達に関する支援が大きな課題となっており、子どもたちの育ちを早期から一貫して支援していける、市民にとって利用のしやすい相談支援体制の実現をめざす。</p>							
事業の内容	<p>子どもの発達に関する相談の窓口となり、子ども本人や保護者、保育・教育関係者に対して、発達障がいを含む全ての障がいに関することや子育てや発達に関することの相談や助言・検査等の支援、障がい児の就学就園の支援を3部局(保健・福祉・教育)連携のもとに行う。また、ネットワーク会議やケース会議など、関係機関との連携をより密にスムーズに行い支援を実施する。</p>							
複数年にわたる事業	進捗度等	<p>早期からの一貫した支援が必要な子どもの様子は多様化しており、一人ひとりのニーズにあった支援が求められている。相談や検査等のニーズも増加しており、相談員や相談枠を確保することと、1回の相談をより効率的・効果的に活用していくことが必要である。また、支援を繋げるために関係者で進捗状況を丁寧に確認しながら進めていかなければならない。</p>						
	前年度の改善案方向性	<p>本人・保護者がより安心できるような就園就学相談を丁寧に実施した。巡回相談の報告書を見直し、次回の相談までに各学校・園で実践を記入し、継続的に取り組めるようにした。</p>						
	26年度の取組	<p>保育園、幼稚園、小中学校の特別支援教育の実践を充実するために巡回相談を実施しているが、より有効なものにするために1サイクル2回の相談を実施し1回目の相談の振り返り評価を2回目にするにより、内容の充実を図った。</p>						
検討課題	<p>関連部署との業務分担を明確にし、医療機関も含め、スムーズな連携を行うことが、市民のニーズに応じていくことに繋がる。そうした中で、保護者からは就学先や中学校卒業後の進路について心配する意見も多く、早期からの途切れのない支援を進めていくうえで、就学前相談の充実や高等学校や中学校卒業後の進路先や福祉施設等との連携が必要である。 子ども一人ひとりのニーズにあった支援体制を継続して構築できるように、相談機会の確保、相談内容の検討、巡回相談の有効活用など、より一層の充実が課題となってきている。 業務の性格上、個人情報を取り扱うことが多く、その保護と共有・活用については、ケースごとに違いもあり、十分な配慮と慎重さが必要である。</p>							
27年度の取組	<p>前期・後期別をなくし、年間通して巡回相談を1サイクル2回の実施とし、相談員の指導助言を踏まえた実践期間を確保しながら、必要な支援についての相談体制の定着を図った。 また、松阪市療育センターとの連携により、一貫した支援体制の構築に向け、月1回「就学就園相談」を新たに担当し、就学前の幼児の保護者相談を進め、丁寧な就学支援に努めた。</p>							
今後の方向性・改善案	<p>平成28年度に松阪市子ども発達総合支援センターの設置に伴い、「育ちサポート室」は教育委員会から福祉部局へ移管するが、本事業については移管後も福祉部局において継続する。 平成30年4月には松阪地域特別支援学校(仮称)が開校予定であり、今後、関係部局、特別支援学校とも連携を図りながら相談支援体制を構築していく必要がある。 増加している相談や検査等の支援ニーズに対しては、相談員の確保や相談枠・訪問時間の検討等を進め、各学校・園、関係機関とも共有しながら、より効率的・効果的な支援方法を確立していく必要がある。</p>							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実】			番号		12	
					平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
事業名	外国人児童生徒いきいきサポート事業			評 価	A		A	
担当課	人権まなび課	事業年度	平成19年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	13,476 千円	平成27年度決算	14,466 千円	平成28年度予算	15,542 千円		
事業の目的	外国人児童生徒を対象に、学校生活への適応支援及び初期の日本語指導等を行うことにより、学校生活での不安を解消するとともに、高等学校等への進学や就職など、中学卒業後の進路に関する支援を行う。							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」の運営。</li> <li>外国人児童生徒の在籍する小中学校へ、巡回による指導補助者（母語スタッフ）の派遣。</li> <li>外国人児童生徒及び保護者のための進学及び就職に関する進路ガイダンスの開催。</li> </ul>							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	市内在住の外国人12人及び日本語指導員等7人を雇用し、初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において学校生活への適応支援及び日本語学習支援を行った。						
	前年度の改善案方向性	引き続き、外国人児童生徒の在籍状況に応じた支援体制の充実を図るとともに、進路保障に繋がるJSLカリキュラムによる分かりやすい授業づくり等、教科学習への支援の充実を図る。また、初期適応支援教室「いっぽ」についても、待機児童生徒の解消に向け学習支援体制の充実を図る。						
	26年度の取組	初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校における学校生活への適応支援及び日本語学習支援を行うにあたり、母語スタッフの適切な配置に努めた。						
検討課題	日本語指導の必要な外国人児童生徒の増加に対する今後の適応支援のありかた。							
27年度の取組	<p>市内在住の外国人12人及び日本語指導員等7人を雇用し、初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において、学校生活への適応支援及び日本語学習支援等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期適応支援教室「いっぽ」…通級児童生徒数 47人 うち修了児童生徒数 37人 次年度継続通級9人 H27年度中に市外転出1人</li> <li>小中学校等巡回指導補助…小学校 20校、中学校7校、幼稚園3園 支援状況 1,052回、6,880時間</li> <li>進路ガイダンス…開催回数 1回、参加者数 121人</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	日本語指導を必要とする外国人児童生徒数は増加の一途をたどっており、在籍する学校の広域化も進んでいる。このため、学校生活への適応支援及び日本語学習支援はますます必要となっており、在籍状況に応じた支援の充実を図る。そのためにも、ボランティアスタッフの充実を図っていくとともに母語スタッフの効率的な派遣を進めていく。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【キッチンリ！パッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実】			番号		13
					平成26年度	平成27年度	
事業名	外国人児童生徒受入促進事業				評価	A	A
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度～継続中				
予算・決算	平成26年度決算	4,618 千円	平成27年度決算	4,437 千円	平成28年度予算	5,183 千円	
事業の目的	外国人児童生徒の在籍の多い小中学校をセンター校（久保中学校、第二小学校、第五小学校）、準センター校（殿町中学校、徳和小学校、花岡小学校、幸小学校）に指定し、三重大学、愛知淑徳大学等関係機関の指導、助言、協力を受け、外国人児童生徒の受入体制や日本語指導の充実及びアイデンティティの確立のため、調査研究を行う。						
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会（事業計画の立案、検討、課題改善策の協議）の開催</li> <li>・プロジェクト会議（具体的な取り組みについての計画、検討、改善等の協議）の開催</li> <li>・ネットワーク会議（取り組み内容や教材などを全市的に共有）の開催</li> <li>・担当者会議の開催（センター校、準センター校の情報交換）</li> <li>・センター校・準センター校等への指導補助者（母語スタッフ）の配置</li> <li>・就学前支援教室「ふたば」の開催</li> <li>・多文化理解授業の実施</li> <li>・フォトストーリーづくりの実施</li> <li>・日本語指導法連続講座</li> <li>・高校見学バス研修</li> </ul>						
複数年 にわたる 事業	進捗度等	日本語指導の必要な外国人児童生徒の在籍が増加、分散化する中で、小中学校での受入体制の整備、学校における日本語指導の充実のため、課題の整理を行い、国際教室の運営の充実、教材等の作成など、センター校、準センター校において取り組んだ。さらに、課題の改善等調査研究を進めるとともに、センター校、準センター校の取組の成果を松阪市全体に広げていく。					
	前年度の改善案方向性	センター校、準センター校の取組の成果を松阪市全体に広げるとともに、アイデンティティ確立のための取組の充実を図る。					
	26年度の取組	センター校・準センター校での初期の日本語指導等の実践研究、教科指導の充実を図り、受入体制の確立を図った。					
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けた教科指導能力の向上等、進路保障に向けた取組の充実</li> <li>・アイデンティティ確立のための取組の充実</li> </ul>						
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会の開催（開催数:2回）：事業計画の立案、課題等の改善策の協議等を行った。</li> <li>・プロジェクト会議の開催（開催数:4回）：具体的な取組についての計画等を協議した。</li> <li>・ネットワーク会議の開催（開催数:3回）：センター校等の取組を全市的に情報共有した。</li> <li>・担当者会議の開催（開催数:6回）：センター校・準センター校の担当者が情報交換を行った。</li> <li>・小中学校指導補助の実施（530回 1,905時間 小学校13校・中学校6校・幼稚園1園）：母語スタッフ7人により巡回による指導補助を行った。</li> <li>・就学前支援教室「ふたば」の開催（開催数:11回、参加幼児数:18人）：次年度入学予定の幼児対象に小学校で学ぶための日本語学習や生活規律に関する支援や保護者への情報提供等を行った。</li> <li>・多文化理解授業の実施（開催数:1回、第二小学校全校児童149人）：三重大学留学生3人により、各国の文化や生活について学んだ。</li> <li>・フォトストーリーづくりの実施（開催数:1回、参加児童生徒数:11人）：愛知淑徳大学の准教授及び学生の指導のもと、自分の夢や生活に関する写真にナレーションをつける手法で映像にまとめ、自分を発見し表現することで、アイデンティティの確立を図った。</li> <li>・日本語指導法連続講座（開催日:7月29日・8月5日、参加者数:のべ45人）：小中学校教職員・初期適応支援教室「いっぽ」のボランティアを対象に、三重大学講師による「みえこさんのにほんご」の指導法を学んだ。</li> <li>・高校見学バス研修（開催日:10月25日、見学場所:県立高校3校、参加者:児童生徒30人・保護者10人・通訳等16人）</li> </ul>						
今後の方向性・改善案	センター校・準センター校の取組の成果を松阪市全体に広げるとともに、教科指導能力の向上のための研修会の充実を図る。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実】				番号		14
						平成26年度	平成27年度	
事業名	学校給食単独調理場備品等整備事業費				評価	A	A	
担当課	給食管理課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	25,497 千円	平成27年度決算	22,355 千円	平成28年度予算	26,017 千円		
事業の目的	学校給食単独調理場における作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。 ＜対象となる単独調理場＞</li> <li>本庁管内24小学校(単独調理場)</li> </ul>							
複数年にわたる事業	進捗度等	年次計画により、空調設備及び食器洗浄機並びにコンベクションオープン、業務用冷凍冷蔵庫の整備を行った。						
	前年度の改善案方向性	実施計画に基づき、備品等の整備を行う。						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調設備設置(第四・松江)</li> <li>食器洗浄機(伊勢寺・射和)</li> <li>コンベクションオープン(松江)</li> <li>自動手指洗浄消毒器(第一ほか20校) など</li> </ul>						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化とともに、主要な大型備品が設置から20年以上を経て更新時期を迎えている。</li> <li>将来的な学校の統廃合を見据えた備品整備が必要である。</li> </ul>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調設備設置(第五・松尾)</li> <li>食器洗浄機(第一)</li> <li>コンベクションオープン(第五・松尾)</li> <li>業務用冷凍冷蔵庫(15校) など</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	安全・安心な学校給食を提供するため、衛生環境及び作業能率向上につながる備品等の整備を図る。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実】			番号		15
					平成26年度	平成27年度	
事業名	学校給食センター備品等整備事業			評価	A	A	
担当課	給食管理課	事業年度	平成17年度～継続中				
予算・決算	平成26年度決算	18,087 千円	平成27年度決算	8,914 千円	平成28年度予算	26,657 千円	
事業の目的	学校給食センターにおける作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。						
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。</li> <li>&lt;対象となる学校給食センター&gt;</li> <li>学校給食センターベルランチ・嬉野学校給食センター・三雲学校給食センター・飯南学校給食センター・飯高学校給食センター(宮前・森調理場)</li> </ul>						
複数年にわたる事業	進捗度等	給食が未実施であった5幼稚園において、平成26年9月から給食を開始したことにより、市内全ての公立小中学校及び幼稚園で、給食を提供できることとなった。					
	前年度の改善案方向性	・実施計画に基づき、備品等の整備を行う。					
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸気回転釜(ベルランチ)</li> <li>・二重食缶・スプーン通し・はしカゴ(ベルランチ)</li> <li>・天吊りコンテナ消毒装置(ベルランチ)</li> <li>・折りたたみワゴン・配膳台・作業台(5幼稚園) など</li> </ul>					
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯南学校給食センターの建設時(平成7年)に設置された大型備品が更新時期を迎えている。</li> <li>・飯高学校給食センターとの統合に向けた備品整備が必要である。</li> </ul>						
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務用冷蔵庫ほか(嬉野)</li> <li>・業務用冷蔵庫ほか(三雲)</li> <li>・油焚き貫流式蒸気ボイラーほか(飯南)</li> <li>・移動作業台(飯高)</li> <li>・衣類乾燥機ほか(ベルランチ) など</li> </ul>						
今後の方向性・改善案	安全・安心な学校給食を提供するため、衛生環境及び作業能率向上につながる備品等の整備を図る。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【市民による、市民のための生涯教育の推進】				番号		16
						平成26年度	平成27年度	
事業名	人権学習推進事業				評価	B		B
担当課	人権まなび課	事業年度	平成19年度～継続中			B		B
予算・決算	平成26年度決算	2,206 千円	平成27年度決算	1,896 千円	平成28年度予算	618 千円		
事業の目的	さまざまな人権問題に関する学習機会を提供し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図る。							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権講座、講演会の開催(平成27年度まで実施)</li> <li>・人権教育研修講座の開催</li> </ul>							
複数年にわたる事業	進捗度等	さまざまな機会を利用しながら、多様化する人権課題について学習機会を提供することで、人権意識の高揚を図ってきたが、社会の背景の変化とともに生起する人権問題への対応や地域の課題に即した人権学習の機会提供を継続して実施していく。						
	前年度の改善案方向性	今後も、社会的な背景の変化を見極めながら、状況に応じた人権課題についての講演会等の教育・学習機会を提供し、より効果的に人権学習が行われるよう支援を行う。						
	26年度の取組	人権尊重社会の実現に向け、社会教育における人権に関する学習機会の提供を目的に、人権講座・人権講演会等を開催し、住民主体の人権学習の支援を行った。						
検討課題	人権意識が態度や行動に結びつく効果的な教育・学習活動の充実を図り、人権感覚を持った人材を育成すること。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権講座の開催(開催数11回、参加者数1,333人)</li> <li>・人権講演会の開催(開催数8回、参加者数1,227人)</li> <li>・人権啓発映画会(開催数2回、参加者数425人)</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	今後も社会状況の変化を見極めながら、課題に合わせた学習機会の提供を行い、より効果的に人権学習が行われるように講座を設ける等の支援を行う。また、平成28年度からは、「市民対象の人権啓発に関わる業務の大部分を市長部局の人権・男女共同参画推進課に移管し、学校教育に関する部分のみを担当することになった。							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		17
						平成26年度	平成27年度	
事業名	こどもまつり大会事業				評 価	A		A
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中			A		A
予算・決算	平成26年度決算	1,728 千円	平成27年度決算	1,712 千円	平成28年度予算	1,992 千円		
事業の目的	<p>創作や遊びを通じて、子どもたちは家族との絆を深め、また友だちとの親睦交流を図ることで、子どもたちの健やかな成長を期待する。</p>							
事業の内容	<p>創作や遊びを通じて子どもたちが家族や友だちと1日ゆっくり過ごすことができる催し物を「ステージ」「たべる」「つくる」「あそぶ」の各ブースを設けて提供する。 (中部台運動公園芝生広場(雨天時:さんぎんアリーナ)において、ステージでは子どもたちの楽器演奏やダンスパフォーマンス、各ブースでは各種工作やゲーム等、実行委員である各関係機関・団体の運営により、子どもたちの楽しめるまつり開催に取り組んでいる。)</p>							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	<p>創作や遊びを通じて子どもたちが家族や友だちと1日楽しく過ごすことができる催し物を提供できている。また学生によるボランティア参加も呼びかけており、青少年の育成の場ともなっている。</p>						
	前年度の改善案方向性	<p>来場者は駐車場を基に判断した場合、許容量に近い状態にある。しかし、「まつり」というものの性質を考え(皆で楽しく参加すること)、参加者の来場に向けた広報・体制づくりに力を注ぎ、今後もまつりの質を高めるように実行委員と一緒に進めていく。</p>						
	26年度の取組	<p>毎年4月に、松阪市内小中学校や幼稚園、保育園に、児童生徒、園児数に合わせた枚数の開催チラシを配布。市内児童生徒、園児数が約1万9千人で、保護者を含め約4万人のうち、半数の2万人が参加していることを考えれば、「こどもまつり」は子育て世代に関心のある、認知された事業となっている。</p>						
検討課題	<p>松阪こどもまつりは39回を迎え、市民に定着しており、事業費削減の中でも、実行委員の努力により多数の方に来場していただいているが、その反面、駐車場の許容能力が限界に近づいており対応を検討していく必要がある。また、会場となっている中部台運動公園芝生広場は、毎年この時期に芝生の張替え養生期間となるため、一部使用できない箇所があり、会場レイアウトで苦心している。</p>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会:4回開催</li> <li>・日 時:平成27年4月26日(日) 午前10時から午後3時まで</li> <li>・場 所:中部台運動公園芝生広場</li> <li>・参加者:23,000人</li> <li>・内 容:ステージ・たべる・つくる・あそぶ各コーナーの開設</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>中部台運動公園は、松阪市内で最も大きい芝生公園で、駐車場も確保しやすい環境にある。会場及び駐車場を収容的に見て市内にこれ以上大きな会場は見当たらず、参加者も会場に見合った来場があるため、継続使用していきたい。 また、子どもたちの安全確保について、まつり開催における重要な課題であり、実行委員会内において今後とも協議を進めていきたい。 今後は、親子で参加できる催しを増やしていく必要がある。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		18
						平成26年度	平成27年度	
事業名	青少年健全育成事業				評価	B		B
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中			B		B
予算・決算	平成26年度決算	6,336 千円	平成27年度決算	6,434 千円	平成28年度予算	6,567 千円		
事業の目的	地域・学校・家庭が連携して、青少年と大人が一体となり推進することにより、心身ともに豊かな子育て・子育ての支援と青少年の健全育成を図る。							
事業の内容	青少年の健全育成を図るため、行政と「青少年育成市民会議」及び「各地区健全育成会」が一体となって、家庭教育講座や講演会等の健全育成事業を推進する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	松阪市青少年育成市民会議においては、平成23年度より市内5市民会議を一本化し、青少年健全育成事業の効率化を図っている。						
	前年度の改善案方向性	前年度に引き続き松阪市青少年育成市民会議5支部が協力し、青少年を育てる大人に向けた内容の充実を図り「青少年育成のつどい講演会」を開催していく。						
	26年度の取組	市内青少年育成団体と協力して「青少年育成のつどい講演会」を開催。青少年に関わる大人向けの講演内容で、満足度80%以上を目標とし、26年度は87%の実績となった。						
検討課題	<p>青少年健全育成の事業は、行政の一方的な指導・推進では限界があり、家庭・地域・行政の連携が重要である。</p> <p>これを実践するためには、各地域に青少年健全育成の事業を推進・指導する意欲と能力を持った「指導者」の養成が必須となる。</p>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成のつどい講演会の開催 平成27年12月10日(木) 午後7時から午後8時30分まで 農業屋コミュニティ文化センター</li> <li>・家庭教育講演会・子ども体験教室等の開催</li> <li>・市内22育成会にそれぞれの地域にあった健全育成活動を業務委託</li> <li>・松阪市青少年育成市民会議の活動を通じて健全育成事業及び「あいさつ運動」の推進として標語を募集し、優秀作品の表彰を行った。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>青少年健全育成の事業については、社会全体で取り組む必要があると認められる。特に地域での取り組みがポイントと考えられる。そのための指導者養成や各地域の自主性・自律性を高めることが具体的方策となる。</p> <p>また、子どもの健全育成のために今後も事業を推進していくが、関係団体等の理解を得て、さらに一層の事業精査、事務改善を図っていく。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		19
						平成26年度	平成27年度	
事業名	新成人のつどい開催事業				評価	A	A	
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	440 千円	平成27年度決算	480 千円	平成28年度予算	3,040 千円		
事業の目的	新成人を祝い大人としての責任と自覚を促す場として、一人ひとりが心に残る新成人のつどいを開催する。							
事業の内容	前半は市長祝辞、新成人謝辞及び後半は、新成人による実行委員会の企画によるアトラクションの構成で開催し、新成人による実行委員会が企画運営する。 (新成人を中心としたメンバーが実行委員会を組織し、企画や運営、PRポスター作成などに、9月下旬から取り組む)							
複数年にわたる事業	進捗度等	新成人の実行委員会により企画・運営をする新成人のつどいを開催できているが、実行委員の応募が毎年少なく、実行委員会を設置するのに苦心している。						
	前年度の改善案方向性	前年度に引き続き20歳の実行委員による手作りの企画と運営をより充実させて開催していきたい。						
	26年度の取組	実行委員によるオープニングスライド(母校舎等)の作成、恩師を訪ねビデオメッセージの収録、新成人による思い出トーク、抽選会を実施した。						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新成人による実行委員の応募が毎年少なく、実行委員会を設置するのに苦心している。</li> <li>・また実行委員会組織後においては、価値観の多様化もあり、実行委員が数多く話し合える場を設けることが重要である。しかし、実行委員のほとんどが学生である現状で、実行委員会出席への時間的制約と実行委員会開催会場の選定など場所的制約が継続的な課題となっている。</li> </ul>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会:6回開催</li> <li>・日 時:平成28年1月10日(日) 午前10時～午前11時30分</li> <li>・場 所:クラギ文化ホール</li> <li>・対 象:平成7年4月2日～平成8年4月1日までに生まれた方</li> <li>・参加人数:1,291人(住民登録者数 1,532人) 住民登録者数に対して 84.26%</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新成人実行委員にとって成人式を成功させることは大きな自信となり、また社会に目を向けることができる。</li> <li>・新成人OBや学校との連携等を強化することで、実行委員会の組織強化のために支援していきたい。</li> <li>・また、開催当日に会場内に入らず、駐車場等にいる新成人が毎年多いため、新成人実行委員会自らメガホンを持って、入場を促している。一定の効果があるため、今後も引き続き行っていきたい。</li> </ul>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		20																								
						平成26年度	平成27年度																									
事業名	図書館管理運営事業				評価	A	A																									
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中																													
予算・決算	平成26年度決算	127,971 千円	平成27年度決算	127,458 千円	平成28年度予算	128,079 千円																										
事業の目的	図書館施設(松阪図書館・嬉野図書館)を適法・適正に管理し、施設利用者へのサービスの向上を図る。																															
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度の導入、図書館コンピューターシステムの利用により、図書館業務の効率化と迅速化を推進する。</li> <li>高度情報化社会の多様なニーズに対応するため、蔵書等の充実を図る。</li> <li>松阪市子ども読書活動推進計画により、ブックスタート事業やボランティアの協力を得て、「絵本の読み聞かせ」等を開催し、子どものための読書活動を推進する。</li> </ul>																															
複数年にわたる事業	進捗度等	指定管理者制度の導入による、(株)図書館流通センター(TRC)の管理業務委託は8年目を迎え、図書館業務の効率化と蔵書の充実等が図られるとともに、住民ニーズに応えるサービスの向上(満足度)に関して順調に達成しつつある。																														
	前年度の改善案方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>司書のスキル習得・向上により、利用者の幅広い要求に対応していくとともに、子どもをはじめとした市民の読書活動を推進していく。また、学校図書室との連携を図っていく。</li> <li>施設の修繕については、担当課とTRCで協議を行い、対応していく。</li> </ul>																														
	26年度の取組	「松尾ふれあい図書館」の運営サポートや「松阪市図書館を使った調べるコンクール」「ビブリオバトル」の企画運営に積極的に携わっている。また、児童書コーナーに司書を常駐させ、子ども読書活動のサポートを行い、利用者の利便性向上に努めている。																														
検討課題	図書館の活動内容を、多くの市民に情報発信し、図書館の利用拡大に繋げていく。また、松阪図書館の経年劣化による施設の維持管理費及び松阪図書館改修計画の推進。																															
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度各図書館(室)における利用状況等</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸出冊数(冊)</th> <th>利用者数(人)</th> <th>27年度末蔵書数(冊)</th> <th>増冊数(冊)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・松阪図書館</td> <td>565,304</td> <td>131,057</td> <td>264,626</td> <td>6,758</td> </tr> <tr> <td>・嬉野図書館</td> <td>278,318</td> <td>78,395</td> <td>128,416</td> <td>4,768</td> </tr> <tr> <td>・三雲図書室</td> <td>14,799</td> <td>4,369</td> <td>25,259</td> <td>1,020</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>858,421</td> <td>213,821</td> <td>418,301</td> <td>12,546</td> </tr> </tbody> </table>								貸出冊数(冊)	利用者数(人)	27年度末蔵書数(冊)	増冊数(冊)	・松阪図書館	565,304	131,057	264,626	6,758	・嬉野図書館	278,318	78,395	128,416	4,768	・三雲図書室	14,799	4,369	25,259	1,020	計	858,421	213,821	418,301	12,546
	貸出冊数(冊)	利用者数(人)	27年度末蔵書数(冊)	増冊数(冊)																												
・松阪図書館	565,304	131,057	264,626	6,758																												
・嬉野図書館	278,318	78,395	128,416	4,768																												
・三雲図書室	14,799	4,369	25,259	1,020																												
計	858,421	213,821	418,301	12,546																												
今後の方向性・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館で行うイベントや講座などを報道機関に積極的に提供し、子どもをはじめとした市民の読書活動を推進していく。また、学校図書室との連携を図っていく。</li> <li>施設の修繕については、担当課と指定管理者で協議を行い、対応していく。</li> </ul>																															

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		21	
						平成26年度	平成27年度		
事業名	生涯学習振興事業				評価	A		A	
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中						
予算・決算	平成26年度決算	12,597 千円	平成27年度決算	12,335 千円	平成28年度予算	14,193 千円			
事業の目的	住民の教養の向上、健康の増進等を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として、定期講座の開設や講習会、講演会等を開催し、これらの公民館事業を通じて豊かな学習機会の提供を行う。								
事業の内容	45公民館で地域課題や住民ニーズに応じた高齢者学級や女性学級等の連続講座や各種体験教室、伝承文化事業等を開催する。 公民館だよりを毎月作成し地域へ情報発信するとともに、全地区公民館へ対しても他館のたよりを配布し、市民への周知と、公民館相互の情報共有を図る。 市ホームページの「公民館趣味サークル情報」を適宜更新し、市民への周知を図る。								
複数年にわたる事業	進捗度等	各公民館において、その時代や地域のニーズに応じた講座を開催し、事業を通じた地域の交流が図られている。							
	前年度の改善案方向性	公民館職員に対し、社会教育法など基礎的な知識の研修や地域での活動状況を聞き取り、地域や時代の要請に応じた生涯学習を推進し、その成果を住民協議会の運営や地域づくりに繋げていく。							
	26年度の取組	公民館職員の資質向上を図るため、三重県生涯学習センター及び三重県公民館連絡協議会と共催して、市内全公民館職員を対象とした「公民館連絡協議会研修会」を開催した。							
検討課題	生涯学習の推進を図る上で地域住民との連携は不可欠であり、社会教育の本義から見ても地域の連帯感や一体感の高揚を目指すための企画立案が求められている。								
27年度の取組	公民館において、住民ニーズ等に応じた学習機会を提供するとともに、多様な教育環境の中で地域社会に参画できる人材の育成を目指して、各管内で講座を実施した。 ・生涯学習振興事業(松阪) 26館・講座数 336講座・開催日数 556日・受講者延数 18,015名 ・生涯学習振興事業(嬉野) 7館・講座数 166講座・開催日数 360日・受講者延数 5,205名 ・生涯学習振興事業(三雲) 5館・講座数 137講座・開催日数 431日・受講者延数 6,264名 ・生涯学習振興事業(飯南) 1館・講座数 29講座・開催日数 109日・受講者延数 1,465名 ・生涯学習振興事業(飯高) 6館・講座数 52講座・開催日数 256日・受講者延数 2,832名								
今後の方向性・改善案	各公民館における、事業運営に関する方策や地域的に取り組むべき課題を包括的に把握するために、各地域ブロックごとのヒアリング等を行う必要がある。								

評価シート

点検・評価対象テーマ		【個性あふれる文化・芸術の振興】				番号		22
						平成26年度	平成27年度	
事業名	市美術展覧会開催事業				評価	B		A
担当課	文化課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	2,218 千円	平成27年度決算	2,654 千円	平成28年度予算	2,985 千円		
事業の目的	美術文化の祭典として、市民の美術創作意欲を高めるとともに、美術に対する理解を深め、美術水準の向上を図る。							
事業の内容	松阪市で唯一の公的な美術展覧会として、「絵画」「彫刻・工芸」「写真」「書道」の4部門、会期2部制で開催する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	松阪市美術展覧会は、昭和35年より開催され、平成27年度で56回目を迎えた。						
	前年度の改善案方向性	<p>専門家等の意見、並びに審査会と会期時に実施したアンケートの意見などを集約し、運営委員会で協議した結果、平成26年度絵画部門の審査委員に水墨画を専門で審査できる審査委員を加える方向とする。</p> <p>出品者の高齢化についても、高校生以下の出品料無料化を継続するとともに、次代の松阪市を担う新たな才能の育成や芸術教育の振興に寄与できるよう、市内及び近隣の中学校、高校等へ出品を促す広報活動を行っていく。</p>						
	26年度の取組	<p>松阪市美術展覧会運営委員会で検討し、次世代の人材発掘ができるよう、高校生以下の出品料無料化を継続するとともに、絵画部門の審査会において、水墨画も審査できる専門性を持った審査委員を加入し、出品作品の多様化に対応した。</p>						
検討課題	<p>出品者の年齢が高齢化しているため、「後継者づくり」に重点をおき、平成24年度から高校生以下の出品料を無料とした。市内及び近隣の中学校、高校等への広報活動を展開したが、高校生以下の出品数は、平成24年度8点、平成25年度22点と推移し、「教育長の政策宣言」の具体的に取り組む内容の一つとして、30点を目標に掲げた平成26年度は10点と出品が伸び悩んだ。抜本的な改善として、美術を志す生徒の裾野を広げるため、さらに若年層を対象とした美術に触れるきっかけづくりの場を提供していく必要がある。</p>							
27年度の取組	<p>・第56回松阪市美術展覧会の開催 【出品者】332点(うち高校生以下 8点)、【来場者】3,232人(うち高校生以下 320人)</p> <p>・市制施行10周年記念事業 夏休み子どもワークショップ「みんなで作る！しあわせのまち まつさか」</p> <p>・次代の松阪市を担う子どもたちに美術へ関心を持つ機会を提供するため、市制施行10周年記念事業の一環として、市展と同じ4部門で、児童とその保護者を対象としたワークショップを実施し、対象年齢に応じた未来に伝えたい作品づくりを行うとともに、製作した作品を会期にあわせ展示した。 【開催日】平成27年8月19日 【参加者】小学1～3年生73名とその保護者</p>							
今後の方向性・改善案	<p>児童を対象としたワークショップの開催により、最も身近に芸術を鑑賞できる場である市展に幅広い年代が来場するきっかけとなった。次年度も市展と連動したワークショップを継続して行い、芸術文化に興味をもち、自らが製作者となるような人材の育成につなげていく。</p>							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		23
						平成26年度	平成27年度	
事業名	文化芸術団体共催事業				評 価	A		A
担当課	文化課	事業年度	平成24年度～継続中			A		A
予算・決算	平成26年度決算	174 千円	平成27年度決算	120 千円	平成28年度予算	219 千円		
事業の目的	文化芸術団体のネットワーク組織である「松阪市文化芸術団体連絡協議会」の各ジャンルの取組を、同協議会を通じて共催事業という形で支援し、文化振興を図る。							
事業の内容	文化センターでの公演並びに文化財センターギャラリーでの展示会等を実施し、より多くの市民に芸術文化の鑑賞及び体験の機会を提供することにより、芸術文化に対する関心を深める。							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	平成23年7月、市内で活動する様々な文化芸術団体がジャンルごとにまとまり、そのネットワーク組織である「松阪市文化芸術団体連絡協議会」が設立され、当協議会を文化振興の核となる組織として位置づけた。						
	前年度の改善案方向性	文化芸術の普及、振興に資する事業をより一層充実させるには、文化芸術のネットワークを構築する連絡協議会を活性化させることが重要であり、そのためには交流の機会を増やし、加盟団体間、並びに市との連携を強化する必要がある。						
	26年度の取組	「松阪市民謡民舞まつり」、「松阪市民能」、「合同コンサート 永遠のスクリーンミュージックⅡ」、「邦楽演奏会」、「松阪市民ギター音楽祭」、「ギター製作家 中出阪蔵展」、「松阪写真交流会フォトフェスティバル」の7事業を共催事業として実施した。						
検討課題	<p>松阪市文化芸術団体連絡協議会の加盟団体相互の情報の共有及び交流を目的とした会議等の機会を増やし、加盟団体間、並びに市との連携を強化する必要がある。</p> <p>また、市内には松阪音楽文化協会や嬉野文化協会が存在するが、各協会に加入されている団体の一部しか同協議会に加盟されていない。</p> <p>市民の文化芸術活動を支援・育成する事業を積極的に取り入れるとともに、鑑賞型の事業においても市民の意向をより多く反映した事業の展開が必要である。また、会館の運営に寄与するような収益性の高い事業の実施も考慮していく必要がある。</p>							
27年度の取組	「松阪市民能」、「松阪市民ギター音楽祭」、「ギター製作家 中出阪蔵展」、「松阪写真交流会フォトフェスティバル」の4事業を共催事業として実施した。							
今後の方向性・改善案	<p>加盟団体相互の情報の共有及び交流を目的とした会議等の機会を増やし、異文化の交流、加盟団体間、並びに市との連携を強化する。</p> <p>松阪市文化芸術団体連絡協議会と市が協働し、文化芸術の普及、振興に資する事業の充実を図る。また、鑑賞型の自主事業とすみわけを行い、市民参加型の事業としての展開を図っていくことで、より多くの市民に芸術文化に対する関心を持っていただく。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【個性あふれる文化・芸術の振興】				番号		24
						平成26年度	平成27年度	
事業名	文化センター自主事業				評価	A	A	
担当課	文化課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	9,116 千円	平成27年度決算	10,733 千円	平成28年度予算	12,665 千円		
事業の目的	市民に優れた文化芸術を享受・参加する機会を提供することで、文化芸術に対する関心を高め、松阪市の文化芸術の水準の向上を図る。							
事業の内容	文化センターを中心に、コンサートなどの鑑賞型事業及び体験型事業等を実施し、多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	鑑賞型事業主体から、市民参加型事業及び体験型事業を多く実施する方向で進めており、舞台裏見学会や松阪の第九コンサートを継続して実施している。						
	前年度の改善案方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業は今後も継続する。</li> <li>・入場者の増加に向け、文化芸術に関連するコンサートや市民のニーズに合った催物を検討する。</li> </ul>						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主事業として、クラギ文化ホール他3館で計17事業を実施した。</li> <li>・自主事業の入場者数は 4館合計で8,332人であった。</li> </ul>						
検討課題	市民の文化芸術活動を支援・育成する事業を積極的に取り入れるとともに、鑑賞型の事業においても市民の意向をより多く反映した事業の展開が必要である。 また、会館の運営に寄与するような収益性の高い事業の実施も考慮していく必要がある。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主事業として、【クラギ文化ホール】11事業、【農業屋コミュニティ文化センター】2事業、【嬉野ふるさと会館】1事業、【飯南産業文化センター】1事業、【ハートフルみくもスポーツ文化センター】1事業及び【文化芸術団体共催事業】2件の計18事業を実施した。</li> <li>・自主事業の入場者数は 【クラギ文化ホール】10,763人、【農業屋コミュニティ文化センター】646人、【嬉野ふるさと会館】42人、【飯南産業文化センター】167人、【ハートフルみくもスポーツ文化センター】170人及び【文化芸術団体共催事業】1,007人の計12,795人であった。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>今後も、市民参加型事業を実施し、芸術文化に対する市民の意識の高揚を図っていく。 また、民間業者等との自主共催事業の実施による事業経費の削減や市民のニーズに応えた多様性のある事業の展開を図っていく。</p>							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		25
						平成26年度	平成27年度	
事業名	歴史的建造物公開事業				評 価	A		
担当課	文化課	事業年度	平成17年度～継続中			A		
予算・決算	平成26年度決算	22,461 千円	平成27年度決算	26,500 千円	平成28年度予算	40,274 千円		
事業の目的	重要文化財「御城番屋敷」「旧長谷川邸」、市指定文化財「原田二郎旧宅」など、歴史的に貴重で意義のある建造物を一般公開することで、市民や市外からの入館者に歴史的遺産の貴重な価値をアピールするとともに、その保全・活用を推進する。							
事業の内容	御城番屋敷・旧長谷川邸・原田二郎旧宅を公開するとともに、建造物、庭園等の文化財的な価値を維持するため必要な管理を行う。また、市内に所在する歴史的建造物及び史跡の特別公開を行うことにより、文化財保護を市民に周知するなど、保存活用に関する普及啓発活動を行う。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成2年度から「御城番屋敷」、平成24年10月から「原田二郎旧宅」、平成25年度から「旧長谷川邸」の公開を開始してきた。						
	前年度の改善案方向性	当該事業は今後も継続する。 入館者の増加に向け、効率的な公開・展示方法や、市民目線に立ったわかりやすい解説を検討する。						
	26年度の取組	※各施設の入館者数 ・御城番屋敷：32,996人 ・旧長谷川邸：フリー公開5,434人（年間24日）、団体公開317日（14団体） ・原田二郎旧宅：6,830人 ※シンポジウム「長谷川家と豪商のまち松坂」平成26年10月26日 入場者数 213人 ※旧長谷川邸大正座敷修理工事設計監理業務委託 工期：平成26年10月8日～平成27年3月13日 ※旧長谷川邸大正座敷修理工事 工期：平成27年1月6日～平成27年3月13日 ※原田二郎旧宅企画展示 平成26年11月11日～平成27年1月12日 入場者数 911人						
検討課題	文化財建造物は、経年劣化により様々な補修を要するが、法的な手続き、継続的な経費負担など、その維持管理には課題が多い。所有者の理解と協力を得ながら、歴史的視点にたった「まちの魅力」発信、文化財保護の意義への幅広い理解を得るためにも、今後、市民目線に立った分かりやすい手法で文化財保護に係る啓発活動を推進する必要がある。							
27年度の取組	※各施設の入館者数 ・御城番屋敷：43,065人 ・原田二郎旧宅：7,600人 ・旧長谷川邸：フリー公開 14,398人（年間66日）、団体公開 1,245日（56団体）、合計 15,643人 ※旧長谷川邸「火用心」札 印刷体験 平成27年10月11日・12日 参加者数 200人 ※長谷川家文化財講座「長谷川家の新資料」平成27年11月15日 参加者数 52人 ※旧長谷川家住宅離れ修理工事設計監理業務委託 工期：平成27年5月25日～平成28年2月5日 ※旧長谷川家住宅離れ修理工事 工期：平成27年9月25日～平成28年1月29日 ※原田二郎旧宅企画展示 平成28年1月5日～平成28年2月28日 入場者数 855人							
今後の方向性・改善案	各施設の適正な保存整備及び環境整備を図りながら、入館者の増加に向け、効率的な公開・展示方法を検討する。							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		26	
						平成26年度	平成27年度		
事業名	文化財保存整備事業補助金				評 価	A		A	
担当課	文化課	事業年度	平成17年度～継続中						
予算・決算	平成26年度決算	247 千円	平成27年度決算	244 千円	平成28年度予算	250 千円			
事業の目的	<p>国・県・市指定の文化財の適正な保存管理と活用を図るため、市内に所在する指定文化財の修理に対して、補助金を交付することにより、本市の歴史・文化または自然を理解し、地域の特性を考えるために欠くことのできない大切な文化財を後世に繋げていく。</p>								
事業の内容	<p>指定文化財の管理または修理に要する費用の一部を、所有者または管理団体に対して補助する。</p>								
複数 年 に わた る 事 業	進捗度等	<p>必要に応じて補助金を交付することで、一定数の貴重な文化財が修復されてきた。</p>							
	前年度の改善案方向性	<p>国県と協議する中で、貴重な文化財を管理、修理する費用に対する有効な補助金制度についての情報収集を行いながら、文化財保護の観点から、必要に応じ規定の補助金を交付していく。</p>							
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化財御城番屋敷の建具修理・調整に要する経費の一部を補助した。</li> <li>・補助金額 247,000円(全体工事費 990,360円)</li> </ul>							
検討課題	<p>修理する際の様々な手続き、必要経費の負担など、その維持管理には様々な課題がある。そのような状況下で、指定文化財の公益性の観点から所有者の負担を少しでも軽くできるよう、経費の一部を補助していかなければならない。市民の理解と協力を得ながら、歴史的な視点から「まちの魅力」発信、文化財保護活動の意義について広く理解を得られるよう、市民目線に立ったわかりやすい手立てを講じていく必要がある。</p>								
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化財御城番屋敷の建具修理・調整に要する経費の一部を補助した。</li> <li>・補助金額 244,000円(全体工事費 977,292円)</li> </ul>								
今後の方向性・改善案	<p>国・県・市指定の文化財の適正な保存管理に係る費用に対する補助金について、国県とも調整を行いながら、必要に応じ規定の補助金を交付していく。</p>								

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		27
						平成26年度	平成27年度	
事業名	松坂城跡保存整備事業				評価	A	A	
担当課	文化課	事業年度	平成25年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	4,100 千円	平成27年度決算	11,842 千円	平成28年度予算	8,810 千円		
事業の目的	平成23年の国史跡指定によって、将来にわたり市のシンボルとして、また市民がさまざまな行事をこの城跡で行い、数多くの人びとの集い・憩いの場として、市を代表する観光拠点として今後も在り続けるよう整備を図る。							
事業の内容	国指定史跡松坂城跡の価値を今後も保存し、それを活用するための保存整備について、市民、専門家とともに松坂城跡保存整備検討委員会を開催し、「整備基本計画書」及び文化財調査の結果に基づき、石垣補修・園路改修等の各種整備を行う。							
複数年にわたる事業	進捗度等	石垣の現状を把握するための石垣調査を行った。						
	前年度の改善案方向性	石垣の現状等を把握したうえで、整備基本計画書を策定していく必要がある。						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「史跡松坂城跡整備基本計画書」を策定するための整備検討委員会を2回開催した。</li> <li>・平成26年度史跡松坂城跡石垣調査業務委託 工期：平成26年7月3日～平成27年3月20日</li> </ul>						
検討課題	石垣修理工事及び史跡内整備は、長期間にわたり多額の費用がかかる。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「史跡松坂城跡整備基本計画書」を策定するための整備検討委員会を2回開催した。</li> <li>・平成27年度史跡松坂城跡石垣調査業務委託 工期：平成27年4月14日～平成28年3月15日</li> <li>・平成27年度史跡松坂城跡石垣測量調査業務委託 工期：平成27年12月1日～平成28年3月15日</li> <li>・平成27年度史跡松坂城跡石垣発掘調査業務委託 工期：平成28年1月25日～平成28年3月16日</li> <li>・史跡松坂城跡発掘調査現場説明会 平成28年2月14日 参加者数37人</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	各種文化財調査の結果に基づき実施計画の検討・策定を行い、計画的な石垣修理工事等の実施及び環境整備を図っていく。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		28
						平成26年度	平成27年度	
事業名	文化財センター特別企画展等事業				評価	A	A	
担当課	文化課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	2,610 千円	平成27年度決算	2,828 千円	平成28年度予算	3,811 千円		
事業の目的	<p>松阪市の文化財保護と芸術文化の振興を図るために、幅広い年齢層を対象とし、歴史・美術愛好家等だけでなく、市民をはじめとする多くの人に興味関心を持ってもらえるような特別展示や企画展示を行い、地域アイデンティティの形成に寄与していく。</p>							
事業の内容	<p>松阪市の文化財保護と芸術文化の振興を図るため、はにわ館及びギャラリーにて常設展・企画展等開催する。</p>							
複数年にわたる事業	進捗度等	<p>旧カネボウ綿糸の綿糸倉庫を活用する形で、平成8年度に文化財センターとして開所し、平成15年度にはにわ館が開館して現在に至る。当初から特別展、企画展を継続して開催してきた。</p>						
	前年度の改善案方向性	<p>市民の文化財への関心の向上、理解を図るための展示内容の充実と、親しみやすさを取り入れることで、集客量の増加を目指していきたい。</p>						
	26年度の取組	<p>はにわ館では企画展3、特別展1を、ギャラリーでは造形関係の企画展2をそれぞれ開催した。</p>						
検討課題	<p>事業目的の実現のため、はにわ館においては通年の常設展示「宝塚古墳の謎」、企画展3本、特別展1本を開催し、また、ギャラリーでは造形関係の企画展示を開催している。 これらを通して、考古系の博物館として市内の遺跡や古墳、収蔵資料への関心の高まりやさらなる理解を図るために企画内容の充実を進めていく。また、ギャラリーにおける企画展については市展の子どもワークショップとの連携を視野に内容を検討する。</p>							
27年度の取組	<p>開所、開館当初から継続している事業であり、はにわ館の入館者が平成15年度からおおむね年1万人で推移していることに大きく寄与している。 【平成27年度入館者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はにわ館 常設展(306日) 10,072人</li> <li>・はにわ館 企画展(3回:のべ120日)・特別展(1回:51日) 6,836人</li> <li>・ギャラリー 企画展(2回:のべ18日) 523人</li> <li>・灯りコンサート(1日) 154人</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>今後も継続し、入館者の増加に向けた効果的な内容の企画展等の開催について検討する。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		29
						平成26年度	平成27年度	
事業名	松浦武四郎誕生地保存整備活用事業				評価	A	A	
担当課	文化課	事業年度	平成19年度～平成30年度					
予算・決算	平成26年度決算	7,397 千円	平成27年度決算	16,484 千円	平成28年度予算	71,206 千円		
事業の目的	松浦武四郎の実家として市が史跡に指定する「松浦武四郎誕生地」(昭和37年三雲村指定)について、文化財保護の観点から史跡の保存を図るとともに、公開・活用を行う。							
事業の内容	史跡を構成する重要な要素である建物について、主屋、離れを改修して内部を活用できるようにするほか、土蔵・納屋を補強して保存を図るとともに、外構・庭園等を整備し、史跡の公開・活用に努める。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成26年度から27年度にかけて、主屋・離れの改修工事に係る設計を行い、28年度から建物改修工事に取り掛かる。						
	前年度の改善案方向性	地域の住民協議会である「おのえ住民協議会」において、市へ提出した地域計画書に史跡の活用が掲げられており、史跡を活かしたまちづくりや、史跡の維持・管理・活用を地域で行っていくことについて話し合われている。						
	26年度の取組	平成26～27年度にかけて、主屋・離れの改修工事に係る基本設計、実施設計を行った。						
検討課題	<p>史跡の公開と活用にあたっては、地域住民の理解と協力が不可欠であり、地域に愛され、地域が十分に活用できるようにしなければならない。</p> <p>また、市民や子どもたちの意見の中には、さまざまな人びとが集い、交流できる場としても、史跡を活用していくことを求める声もあり、文化財としての価値を損なうことがないよう、保存と活用のバランスをうまく取ることが課題である。</p>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備検討委員会の開催(年2回実施)</li> <li>史跡の維持管理に関する維持管理業務、樹木剪定業務の委託</li> <li>主屋・離れの改修に係る設計業務の委託(平成26～27年度)</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<p>今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度 主屋・離れの建物改修、外構・庭園等の整備にかかる設計業務委託</li> <li>平成29年度 主屋・離れの建物改修、外構・庭園整備、備品購入・開館準備等</li> <li>平成30年中 武四郎の生誕200年に合わせて一般公開予定</li> </ul>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		30
						平成26年度	平成27年度	
事業名	松浦武四郎記念館特別企画展等事業				評価	A	A	
担当課	文化課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	694 千円	平成27年度決算	594 千円	平成28年度予算	590 千円		
事業の目的	松浦武四郎記念館について、博物館として保存管理を行っている収蔵資料の展示や関連する事業を行うことで資料の活用をはかるとともに、松浦武四郎への理解を深めていただく。							
事業の内容	松浦武四郎記念館において、重要文化財に指定された松浦武四郎関係資料を60日ごとに展示替えを行うほか、講座・講演会・ワークショップなどを開催し、武四郎の優れた功績やアイヌ民族との交流を広く紹介する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	松浦武四郎記念館で所蔵する資料は1,503点が国の重要文化財に指定されており、60日ごとに展示替えを行っている。						
	前年度の改善案方向性	多くの方々に来館していただけるよう、よりよい展示や講座等を行うとともに、武四郎の魅力を市内外へ広く発信していくよう努める。						
	26年度の取組	・ 展示替え	6回実施	見学者数	のべ9,323人			
	・ アイヌ文化体験教室	3回開催	参加者数	のべ 27人				
	・ 武四郎講座	9回開催	参加者数	のべ 366人				
	・ 講演会	3回開催	参加者数	のべ 109人				
	・ ワークショップ	1回開催	参加者数	23人				
	・ 出版物	2冊発行						
検討課題	開館から22年以上が経過し、内容が古くなった展示室のパネルについては、最新の研究成果に基づく内容にするなど、情報を更新していく必要がある。							
27年度の取組	・ 展示替え	8回実施	見学者数	のべ12,228人				
	・ アイヌ文化体験教室	2回開催	参加者数	のべ 48人				
	・ 武四郎講座	11回開催	参加者数	のべ 429人				
	・ 講演会	1回開催	参加者数	のべ 51人				
	・ 出版物	1冊発行						
今後の方向性・改善案	今後も多くの方々に来館していただけるよう、よりよい展示や講座等を行うとともに、武四郎の魅力を市内外へ広く発信していくよう努める。							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		31
						平成26年度	平成27年度	
事業名	指定文化財保存修理事業				評価	A	A	
担当課	文化課	事業年度	平成24年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	10,764 千円	平成27年度決算	5,112 千円	平成28年度予算	5,044 千円		
事業の目的	<p>国・県・市が指定する有形文化財について、傷みが激しい資料の保存修理を計画的に行い、100年、200年先へと貴重な文化財を後世に伝えるとともに、文化財を保護するだけでなく、活用することにより、観光、まちづくり、人づくりなど様々な分野において役立てる。</p>							
事業の内容	<p>・平成24年度 市指定文化財 宇田荻邨筆「魰」(えり)保存修理          ・平成25～26年度 重要文化財 松浦武四郎関係資料 保存修理(蝦夷屏風)          ・平成27年度 重要文化財 松浦武四郎関係資料 保存修理(古鈴図、稲図、大台山頂眺望図、山本杉芽書簡)</p>							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成25年度から重要文化財に指定された松浦武四郎関係資料のうち、武四郎の自筆または出版をした資料で、特に傷みが激しいものについて保存修理を進めてきた。						
	前年度の改善案方向性	事業費のうち、国50%、県7%の補助金を受けるとともに、修理費の10%についてコスモス文化振興基金を活用し、一般財源の負担を減らすよう努めている。						
	26年度の取組	重要文化財 松浦武四郎関係資料「蝦夷屏風」保存修理(平成25～26年度)						
検討課題	<p>・傷みが激しい資料については、文化庁および三重県教育委員会の指導と助言のもと、今後も継続して修理を行っていく必要がある。</p>							
27年度の取組	<p>・保存修理→古鈴図(巻物)・稲図(掛軸)・大台山頂眺望図(掛軸)・山本杉芽書簡(半紙綴)          ・市民向けに修理に関する講座を開催 → 松浦武四郎記念館友の会の協力を得て実施</p>							
今後の方向性・改善案	<p>今後の修理予定          ・平成28年度 豆遊日誌(書籍)・夏景山水図(掛軸)          ・平成29年度 野田竹溪書簡(半紙綴)・一枚もの資料・北海道国郡図(地図)          ・平成30年度 榎林昌建書簡(半紙綴)</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		32
						平成26年度	平成27年度	
事業名	松阪市スポーツ推進計画策定事業				評価	A	A	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成26年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	1,086 千円	平成27年度決算	267 千円	平成28年度予算	361 千円		
事業の目的	今後10年間の松阪市のスポーツ推進における基本方針を策定し、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を実現するためにどのような施策を展開すべきかの方向性を定めることを目的とする。							
事業の内容	スポーツ基本法の趣旨をふまえ、松阪市におけるスポーツに関する施策について、今後10年間の市の具体的な取り組みを示す、松阪市スポーツ推進計画を策定する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成27年度策定に向け策定委員会、市民意識調査、策定に向け取り組んだが、総合計画との整合性を図るため、平成27年度策定には至らなかった。						
	前年度の改善案方向性	平成27年度には、市民ワークショップを開催しより多くの市民の意見を聞き、関係団体と協議を行い計画に反映していきたい。						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松阪市スポーツ推進計画策定委員 11人 策定委員会3回</li> <li>・市民意識調査 16歳以上の市民 3,000人 回答率 43%(1,291人)</li> </ul>						
検討課題	スポーツ施設の改修等では財政当局との協議や松阪市公共施設等総合管理計画との整合性が必要である。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松阪市スポーツ推進計画策定委員11人。</li> <li>・平成27年度策定委員会開催回数4回 市民ワークショップ2回(60人参加)</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	平成28年度にはパブリックコメントを実施し平成28年度策定とする。							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		33
						平成26年度	平成27年度	
事業名	全国大会等出場派遣支援事業				評 価	A	A	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	3,716 千円	平成27年度決算	4,013 千円	平成28年度予算	5,216 千円		
事業の目的	市民のスポーツに対する関心を深め、日頃のスポーツ活動の成果として国際的又は全国的水準で開催されるスポーツ競技大会などへの出場者への激励金交付及び全国大会等での優秀選手にスポーツ賞を授与することにより、トップ選手の育成に努めスポーツの振興と競技力の向上を図る。							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・激励金の交付 予選を勝ち抜いて全国大会に出場する選手等に対し、1人につき10,000円の激励金を交付する。（国際大会は50,000円、オリンピックは100,000円）</li> <li>・スポーツ賞の授与 全国大会3位以内に入賞した選手、または知名度の高い国際大会に出場した選手の中から松阪市スポーツ賞選考委員会において選考を行いスポーツ賞を授与する。</li> </ul>							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	各種全国大会や国際大会に出場する個人、団体を対象に激励金を交付するとともに、全国大会等での上位入賞者へスポーツ賞を授与し、競技者の向上心を高め、市民のスポーツの振興を図っている。						
	前年度の改善案方向性	スポーツ賞においては、世界大会、全国大会等で活躍した選手を積極的に表彰し、市民の競技スポーツに対する意識の高揚を図っていききたい。						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・激励金の交付 31団体188人、個人178人 計366人</li> <li>・スポーツ賞の授与 団体 スポーツ賞 2、スポーツホープ賞 1 個人 スポーツ賞 13、スポーツホープ賞 4 スポーツ賞の中からスポーツ大賞2団体を選考し表彰した。</li> </ul>						
検討課題	近年、各種目において多くの全国大会が開催されるようになってきている。要綱を定めて交付をおこなっているが、市町によって交付される大会とされない大会がある。近隣市町にも同じ制度があり今後も県内の制度を調査し事業の内容を協議していききたい。また大会日程などによりスポーツ激励会に参加できない対象者もあり、スポーツ激励会の開催方法について検討が必要である。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・激励金 個人162人 37団体242人、スポーツホープ賞 個人9人 4団体6人、スポーツ賞 個人11人 5団体13人</li> <li>・スポーツ賞の中からスポーツ大賞1団体を選考し表彰した。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	スポーツ賞において、世界大会、全国大会等で活躍した選手を積極的に表彰を行うことや、全国大会等に出場し優秀な成績を収めた選手の功績をJR松阪駅前広場中央シェルターに掲示し、広く市民に広報することにより市民の競技スポーツに対する意識の高揚を図っていききたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		34	
						平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
事業名	スポーツ大会等運営事業				評価	B		A	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中						
予算・決算	平成26年度決算	1,642 千円	平成27年度決算	1,989 千円	平成28年度予算	3,279 千円			
事業の目的	国体をはじめとする全国規模の大会の誘致や、競技水準の高いスポーツを見る機会、また主に市民を対象としたスポーツ大会や気軽に参加できるスポーツ大会などの開催により、スポーツのすそ野や競技人口の拡大を図る。また、地域の特色あるスポーツ事業を実施し、地区住民のスポーツに参加する機会を増やす。								
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種市長杯争奪大会(春季・秋季ママさんバレーボール大会、ソフトバレーボール大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会)、児童水泳記録会などを体育協会やスポーツ推進委員連絡協議会に委託し、多くの市民にスポーツの参加機会を提供する。</li> <li>各振興局管内は、地区体育振興会がスポーツ推進委員等と協力して、地域内における「健康づくりのためのスポーツ」事業やスポーツを通じたコミュニティづくりなど、それぞれ特色のあるスポーツ活動を展開する。</li> </ul>								
複数年にわたる事業	進捗度等	市内各所で誰でもが参加できるスポーツ大会を行い、市民が参加しやすい大会を開催している。							
	前年度の改善案方向性	市民誰もが参加しやすいスポーツ大会やイベントなどの開催を検討していく。							
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>市長杯関係大会 ママさんバレーボール大会の開催・・・315人参加、ソフトバレーボール大会の開催・・・台風のため中止、グラウンドゴルフ大会の開催・・・205人、卓球大会の開催・・・中学生の部334人、一般・小学生の部ダブルス56組・個人131人参加</li> <li>児童水泳記録会の開催・・・174人参加(26校)</li> <li>振興局管内開催分 嬉野管内(ふれあいフェスティバル、なめり湖健康ウォーキング フォータッチバレーボール)、三雲管内(松阪市シャフルボード大会inみくも、松阪市スカットボール大会inみくも)、飯南管内(ジョギング大会IN茶倉、市民駅伝飯南大会)、飯高管内(ビーチボールバレー大会in飯高)</li> </ul>							
検討課題	限られた種目で市長杯が実施されてきた。また、職員が大会参加チームのとりまとめや運営を行っていたが、各競技団体に参加募集から大会運営まで行えるよう移行している。今後同一種目内での部門の増加(大人の部、子どもの部など)や参加募集範囲などを検討し、種目内の年齢層の拡大が必要である。								
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>市長杯関係大会 ママさんバレーボール大会の開催・・・285人参加、ソフトバレーボール大会の開催・・・233人、グラウンドゴルフ大会の開催・・・193人、卓球大会の開催・・・中学生の部335人、一般・小学生の部ダブルス74組・個人161人参加</li> <li>児童水泳記録会の開催・・・228人参加(24校)</li> <li>振興局管内開催分 嬉野管内(ふれあいフェスティバル、なめり湖健康ウォーキング フォータッチバレーボール)、三雲管内(松阪市シャフルボード大会inみくも、松阪市スカットボール大会inみくも)、飯南管内(ジョギング大会IN茶倉、市民駅伝飯南大会)、飯高管内(ビーチボールバレー大会in飯高)</li> </ul>								
今後の方向性・改善案	大会運営等を競技団体が実施することにより、より専門性の高い大会開催を実施可能とすることや、事務の効率を図る。また、平成28年度は16種目の市長杯を開催予定であるが、市長杯を実施していない競技団体と市長杯の開催を検討する。								

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		35
						平成26年度	平成27年度	
事業名	シティマラソン大会事業				評価	A	A	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	8,000 千円	平成27年度決算	8,000 千円	平成28年度予算	8,000 千円		
事業の目的	マラソンをとおして、市民の体づくりと健康増進を図るとともに、市内外の幅広い年齢層から参加者を募集し、交流・親睦の場を提供すると共に、健康の増進に大きく寄与することを目的とする。またコース沿道周辺地区の自治会やまちづくり協議会との連携を図ることで官民一体の事業としての大きな役割を持つ。							
事業の内容	<p>松阪市最大のスポーツイベントとして、松阪地区陸上競技協会を中心とした実行委員会を組織して実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種目 【ハーフマラソンの部、5kmの部、3kmの部、ウォーキングの部】</li> <li>・主催 松阪シティマラソン大会実行委員会、松阪市、松阪市教育委員会</li> <li>・大会コース 松阪市総合運動公園 周辺道路(ランニングの部) 鈴の森公園⇒松阪市総合運動公園(ウォーキングの部)</li> <li>・メイン会場 松阪市総合運動公園芝生広場(ランニングの部) 鈴の森公園(ウォーキングの部)</li> </ul>							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成17年の合併後、第1回を開催し毎年市内外から多くの参加者を集め、大規模なスポーツイベントとして毎年開催している。						
	前年度の改善案方向性	ハーフマラソンを導入し、松阪市総合運動公園をスタートして県道御麻生菌豊原線を使い安楽町・山添町・中万町・射和町等を通り庄町で折り返して松阪市総合運動公園をゴールとしてきたが、多くの参加者が参加できるように他の種目も検討してしていきたい。						
	26年度の取組	第10回松阪シティマラソンには、大会史上最多の2,926人の参加申込があり、年々市外からの参加者も増加し盛大に開催することができた。						
検討課題	他市のマラソン大会と期日が重なったこと、また他の小学生の大会とも開催日が近く、小学生の部門を設けることができなかつたため参加者数の減につながった。より多くの市民が参加可能とするため開催日の設定や部門設定などを検討する必要がある。							
27年度の取組	第11回大会は2,525人の市内外のランナーの参加申し込みがあり開催することができた。また、大会運営に携わる多くの大会ボランティアや、沿道での応援など、ランナーのみでなく様々な形で市民が参加できる大会となった。							
今後の方向性・改善案	マラソンは子どもから高齢者まで自分の力に応じて挑戦できる競技であることから、市民に親しまれる競技である。このことから、様々な年齢層などより多くの市民が参加できるよう部門設定を行う。							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		36
						平成26年度	平成27年度	
事業名	スポーツ少年団補助金				評 価	A	A	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	2,876 千円	平成27年度決算	2,960 千円	平成28年度予算	3,240 千円		
事業の目的	低年齢からの体力づくり、子どもの継続したスポーツ活動及びスポーツ人口の拡大を図るとともに、青少年の健全育成に寄与する。							
事業の内容	この補助金は、松阪市スポーツ少年団に登録している各団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助し、下記のとおり算定で支援している。 各登録団の活動費のなかで補助対象経費の2分の1に相当する額を補助し、60,000円を1登録団の上限とし、予算の範囲内で交付するものとする。							
複数年にわたる事業	進捗度等	松阪市スポーツ少年団に登録している各団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助している。						
	前年度の改善案方向性	スポーツの次代を担う児童数が減少し、またスポーツに取り組まない子どもが増える中、スポーツ少年団はスポーツに親しむのに一番身近な存在であり、平成33年の国体で活躍する選手の発掘・育成にその必要性は今後ますます重要になる。						
	26年度の取組	・スポーツ少年団登録 53団(団員数1,146人、指導者数207人)						
検討課題	スポーツ少年団は、各団が活発に活動することによって青少年の心身の健全な育成を図ることを目的に活動しており、この補助金は、その活動に必要な経費に当てられ各団の運営に必要なものと考えている。しかしながら、近年における少子化や社会状況の変化により青少年の余暇の過ごし方が多様化する中、スポーツへの関心が低くなりつつあり、スポーツを行う子どもが減少傾向にある。							
27年度の取組	・スポーツ少年団登録 54団(団員数1,139人、指導者数218人)							
今後の方向性・改善案	総合型地域スポーツクラブや各競技団体などとの連携により、子どもがスポーツを行うきっかけづくりの場の提供や、スポーツ少年団の活動などを広報することにより、スポーツ少年団等への入会が見込まれる。このことにより、こどものライフスタイルにスポーツが取り入れられ、また入会による少年団の会員数の増加により少年団活動がより活発に行われることが見込まれる。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		37
						平成26年度	平成27年度	
事業名	中部台運動公園施設整備事業				評価	A	A	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	47,313 千円	平成27年度決算	24,767 千円	平成28年度予算	37,036 千円		
事業の目的	・経年劣化による施設の改修を行い、施設の利用環境の改善を図る。							
事業の内容	・松阪市さんぎんアリーナ屋上防水他改修工事 24,766,560円							
複数年にわたる事業	進捗度等	・さんぎんアリーナ(松阪市総合体育館)及び流水プールの平成26年度～27年度に計画した工事について終了した。						
	前年度の改善案方向性	・中部台運動公園内施設の安全性や利便性を高め、利用者サービスの向上を図っていくことが重要であり、計画的な改修等に努めていきたい。						
	26年度の取組	・さんぎんアリーナ(松阪市総合体育館)受変電設備改修及び卓球室・武道室・トレーニング室の空調設備設置工事、松阪市流水プール内底等塗装工事。これらの改修は全て経年劣化によるものである。卓球室等への空調設備設置工事については、多くの利用者からの要望もあり、快適で安全な運動環境を確保した。また、流水プールの工事については、安全な利用のため、内底塗料を全部剥がし再塗装した。						
検討課題	・中部台運動公園の各施設は、経年劣化による改修部分が年々多くなってきている。年次計画的改修を実施しているが、突発的な修繕が発生することもあり、施設管理に十二分な留意が必要となる。							
27年度の取組	・さんぎんアリーナ(松阪市総合体育館)は昭和50年度に建設されたもので、経年劣化により大雨が降ると競技場内が雨漏りし競技を一時中断してもらうことや平成26年2月の大雪では雨漏りが止まらず使用不可能となり大会当日に会場変更してもらったことから、雨漏り対策として屋上防水改修工事(アスファルト防水及びウレタン塗膜防水)を実施した。							
今後の方向性・改善案	・中部台運動公園内の各施設は、老朽化が進んできており、安全性や利便性を高め、利用者サービスの向上を図っていくことが重要であるため、日常的な点検を行い、軽微な修繕はその都度行い施設の維持管理に努めるとともに、大きな改修・修繕等については計画的に実施していきたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		38
						平成26年度	平成27年度	
事業名	小学校施設維持修繕事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	63,139 千円	平成27年度決算	74,989 千円	平成28年度予算	116,506 千円		
事業の目的	建物の老朽化・狭隘化の改善や教育の多様化、進展著しい高度情報化などに対応しうる施設機能の充実、災害等に対応する安全性の確保や省資源対策を図る。							
事業の内容	小学校施設を安全で良好な状態に保ち、より効果的に施設を活用するためや時代の要請に即した施設水準を確保するための維持修繕工事を実施する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施。						
	前年度の改善案方向性	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施していく。						
	26年度の取組	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施した。						
検討課題	児童等が一日の大半を過ごす学校施設を安全安心に保ち、時代の要請にあった施設水準を確保するために小学校施設の維持修繕工事を行う。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託料 豊田小学校外3校施設維持修繕工事設計業務委託 300万7,173円</li> <li>・工事請負費 7,198万2,000円（以下に主な工事内容を示す）</li> </ul> 外壁改修工事(花岡小)、屋上防水工事(第一小、機殿小、漕代小、鶴小、宮前小)、トイレ改修等工事(第二小、第三小、幸小、中原小)、多目的トイレ設置工事(豊田小)、シャワー室等設置工事(阿坂小、花岡小、豊田小、)、空調設備設置工事(港小、宮前小)、ポンプ改修工事(阿坂小、射和小、中原小、鶴小、米ノ庄小)、受変電設備改修工事(徳和小、第三小、射和小、西黒部小、伊勢寺小、阿坂小、第五小、掃水小)などを実施した。							
今後の方向性・改善案	施設維持修繕事業については、学校施設の単なる修繕工事だけでなく、学校等環境改善工事(空調、トイレ洋式化等)、また、老朽化が深刻な状況であるため予防修繕工事(消防設備更新、高圧電気設備更新、受水槽等水道設備更新、防水工事等)について緊急性・危険性を十分考慮し実施していきたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		39
						平成26年度	平成27年度	
事業名	小学校管理備品整備事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	29,832 千円	平成27年度決算	29,281 千円	平成28年度予算	28,625 千円		
事業の目的	教材備品などの整備により、多様な知識・技術が習得でき、かつ豊かな人間性を育むことのできる快適で豊かな学習環境の整備充実を図る。							
事業の内容	教材備品、事務備品、運動遊具備品、特別教室・図書室用机及び椅子など備品の整備を行う。							
複数年にわたる事業	進捗度等	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄。						
	前年度の改善案方向性	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄をしていく。						
	26年度の取組	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄をした。						
検討課題	学校教育を行っていく上で必要な教材備品・運動遊具備品・事務機器などの備品整備を行う。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役務費(手数料) 97万518円 ピアノ調律、備品廃棄手数料(テレビ、冷蔵庫、洗濯機)</li> <li>・備品購入費 2,831万1,044円 事務機器(ノートパソコン、石油ファンヒーター、ホワイトボード、ワイヤレスアンプほか) 教用器具(事務用机・椅子、教卓、デジタルカメラ、CDラジカセ、理科教材、ライン引きほか) その他備品(充電式草刈機、動力式噴霧機セット、体育館暗幕ほか)</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	適正な備品管理に努めたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		40
						平成26年度	平成27年度	
事業名	地域材活用学校環境整備事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	7,749 千円	平成27年度決算	8,320 千円	平成28年度予算	8,816 千円		
事業の目的	地域材を活用した学校備品整備と入学から卒業までマイデスク制を運用することにより物を大切に する心の育成を図る。							
事業の内容	市内小学校に対し、木に親しむ環境づくりと地場産業の活性化を目的に、地域材を利用し導入した 木製の机・椅子の維持管理を行う。							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	前年度6年生が使用したデスクセットを次年度1年生に引き渡す際に天板をリニューアルするため天 板補修。また、必要に応じ、修繕及び新規購入等。						
	前年度の 改善案 方向性	前年度6年生が使用したデスクセットを次年度1年生に引き渡す際に天板をリニューアルするため天 板補修。また、必要に応じ、修繕及び新規購入等していく。						
	26年度 の取組	前年度6年生が使用したデスクセットを次年度1年生に引き渡す際に天板をリニューアルするため天 板補修。また、必要に応じ、修繕及び新規購入等した。						
検討課題	平成18年度より新1年生を対象に木製机・椅子を順次導入し、平成23年度に1巡することから、前年 度6年生が使用したデスクセットを次年度1年生に引き渡す際に天板をリニューアルするため天板補修 を行ってきた。 については、年数経過とともに天板以外の机部分の損傷や、椅子に係る修繕費が発生してきている。							
27年度 の取組	6年生が使用していた机を平成28年度新入学生の机とするために天板交換を行う必要があり、交換 用天板536枚を購入した。また、傷みの著しい天板964枚の再加工修繕、また破損修理として机181 台、椅子179台分を行ない、木製児童用机・椅子30組を購入した。							
今後の方向 性・改善案	木製机・椅子の適正管理に努めたい。							

評 価 シ ー ト

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		41
						平成26年度	平成27年度	
事業名	粥見小学校校舎改築事業				評 価	A		
担当課	教育総務課	事業年度	平成27年度～平成30年度					
予算・決算	平成26年度決算	0 千円	平成27年度決算	1,549 千円	平成28年度予算	50,977 千円		
事業の目的	老朽化とともに学校教育を行うのに不適当な建物の改築を行い教育環境の改善を図る。							
事業の内容	粥見小学校の校舎は、昭和34年5月と8月建築で築57年が経過し、老朽化が著しいほか、バリアフリーの推進、給食昇降機がないなどの教育環境の改善を図るため校舎の改築を実施する。							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	平成27年度に耐力度調査を実施。						
	前年度の改善案方向性							
	26年度の取組							
検討課題	平成27年度については耐力度調査を実施し、国庫補助等にかかる採択確認をしながら、校舎改築委員会を立ち上げ、今後の校舎建設に係る具現化を目指す。							
27年度の取組	平成27年度については耐力度調査を実施し、現在、国庫補助等にかかる採択確認をしている。平成28年1月において、平成28年度校舎改築検討に係る準備委員会を立ち上げ、今後の校舎建設に係る具現化を目指す。							
今後の方向性・改善案	校舎の改築により、教育環境の改善を図る。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		42
						平成26年度	平成27年度	
事業名	中学校施設維持修繕事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	63,623 千円	平成27年度決算	35,153 千円	平成28年度予算	92,323 千円		
事業の目的	建物の老朽化・狭隘化の改善や教育の多様化、進展著しい高度情報化などに対応しうる施設機能の充実、災害等に対する安全性の確保や省資源対策を図る。							
事業の内容	中学校施設を安全で良好な状態に保ち、より効率的に施設を活用するためや時代の要請に即した施設水準を確保するための維持修繕工事を実施する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施。						
	前年度の改善案方向性	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施していく。						
	26年度の取組	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施した。						
検討課題	生徒等が一日の大半を過ごす学校施設を安全安心に保ち、時代の要請にあった施設水準を確保するために中学校施設の維持修繕工事を行う。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託料 平成27年度台風15号の影響による応急措置業務への流用 飯南中学校 校舎裏法面崩落応急処置業務委託 93万9,600円</li> <li>・工事請負費 3,421万3,320円（以下に主な工事内容を示す） 加圧給水ポンプ改修工事（殿町中）、ポンプ室改修工事（久保中）、屋上防水工事（東部中）、防球ネット等設置工事（西中）、受変電設備改修工事（殿町中、久保中、東部中、西中）などを実施した。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	施設維持修繕事業については、学校施設の単なる修繕工事だけでなく、学校等環境改善工事（空調、トイレ洋式化等）、また、老朽化が深刻な状況であるため予防修繕工事（消防設備更新、高圧電気設備更新、受水槽等水道設備更新、防水工事等）について緊急性・危険性を十分考慮し実施していきたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		43
						平成26年度	平成27年度	
事業名	中学校管理備品整備事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	16,471 千円	平成27年度決算	14,673 千円	平成28年度予算	16,438 千円		
事業の目的	教材備品などの整備により、多様な知識・技術が習得でき、かつ豊かな人間性をはぐくむことのできる快適で豊かな学習環境の整備充実を図る。							
事業の内容	教材備品、事務備品、運動遊具備品、特別教室・図書室用机及び椅子など備品の整備を行う。							
複数年にわたる事業	進捗度等	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄。						
	前年度の改善案方向性	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄をしていく。						
	26年度の取組	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄をした。						
検討課題	学校教育を行っていく上で必要な教材備品・運動遊具備品・事務機器などの備品整備を行う。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役務費(手数料) 48万9,350円 ピアノ調律、備品廃棄手数料(テレビ)</li> <li>・備品購入費 1,418万4,043円 事務機器事務機器(掃除用具入れ、パソコン関係、扇風機、ホワイトボード、スキャナ、ワイヤレスアンプ・マイクほか)</li> <li>・教用器具費(生徒用机・椅子、楽器、特別支援教材備品、理科備品、書画カメラ、体育備品ほか)</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	適正な備品管理に努めたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		44
						平成26年度	平成27年度	
事業名	鎌田中学校校舎改築事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成23年度～平成32年度					
予算・決算	平成26年度決算	876,920 千円	平成27年度決算	384,560 千円	平成28年度予算	31,703 千円		
事業の目的	老朽化に伴う教育環境整備及び、今後の鎌田中学校区の生徒増加に伴う教室不足を解消するため校舎改築を行い教育条件の整備充実を図る。							
事業の内容	昭和36年5月(築54年)と昭和33年12月(築57年)築の校舎で、耐震性はあるものの老朽化が著しく、教育環境整備並びに教育条件充実のために校舎改築を行う。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年度に耐力度調査、境界測量を行った。平成24年度に用地取得のための建物調査を行った。平成25年度に用地取得のための土地鑑定評価及び営業調査を行った。平成26年度初旬の隣地買収交渉により、土地売買契約等により学校施設用地取得が決定した。平成27年度については、鎌田中学校校舎改築事業基本構想及び基本計画を作成し、鎌田中及び第四小周囲の測量図面を作成した。						
	前年度の改善案方向性	平成24年度の建物調査等、また、平成25年度に営業調査により補償額を決め、平成26年度初旬の隣地買収交渉により、学校施設用地が決定し、基本構想及び基本設計を基に、今後、校舎改築設計に向け業者決定後、具体的な協議を学校関係者等と行います。						
	26年度の取組	今後の建設に向け、具体的な協議を学校関係者等と行っている。						
検討課題	鎌田中学校校舎改築事業は、平成26年度7月の隣地用地取得により、学校施設用地が決定し、今後、建設に向け具体的な設計協議を学校関係者等と行う。用地買収・造成工事・建築工事等に概算で工事費を見直し全体として約47億円(昨年度実施計画策定時から12億増)ほどの事業費を必要としている。(平成23年度～32年度)							
27年度の取組	平成27年度については、校舎改築に伴うアドバイザーを委嘱し、また、名古屋大学との連携協定を基に鎌田中学校校舎改築事業にかかる調査研究業務委託によるサポートを受け、「鎌田中学校校舎改築事業基本計画等策定委員会」を設置し、基本構想、基本計画を策定した。 また、今回購入地と鎌田中及び第四小周囲の改築事業に伴う測量業務委託を夏に実施し、改築事業に必要な図面を作成した。							
今後の方向性・改善案	今後の建設に向け、具体的な協議を学校関係者等と行う。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		45
		平成26年度		平成27年度		平成26年度	平成27年度	
事業名	幼稚園施設管理運営事業				評価	B		A
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	232,172 千円	平成27年度決算	227,149 千円	平成28年度予算	277,413 千円		
事業の目的	幼稚園教育要領『幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条(※)に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ環境を通して行うものであることを基本とする』との趣旨に基づき、適切に幼稚(児)園の維持管理・運営を行うことを目的とする。 ※学校教育法第22条…幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。							
事業の内容	幼稚園の管理運営に必要な、賃金、消耗品費、光熱水費、委託料、借上料等の必要経費を計上。							
複数年にわたる事業	進捗度等	幼稚園の運営に必要な経費であるが、必要性等を考慮し契約・購入している。 また、節電・節水に努めている。						
	前年度の改善案方向性	小規模園の統合、休園に向けた協議						
	26年度の取組	平成28年度からの3歳児保育開設に向けて、実施可能園の選定を行った。 園児が少なく、教育としての集団保育が成り立たない園については、地元と協議を行った。						
検討課題	平成25年3月に策定した幼稚園整備計画において、適正配置の見直しについての基本的な考え方として、市内には定員が100人を越える大規模園がある反面、15人未満の小規模園も存在している状況がある。「松阪市立幼稚園のあり方検討委員会の答申」において1園あたりの望まれる適正規模を概ね75人程度から100人を超えない規模とし、安全面や教育の質の向上、地域のニーズを考えたうえで、中学校区に1～2園に整備していくものとしているが、人口の偏在など地域性により幼稚園の整備を検討していく。							
27年度の取組	平成27年度に行った、平成28年度の園児募集時、3歳児保育実施園を1園増やし20園中12園とした。							
今後の方向性・改善案	市街地の幼稚園では、全ての園で3歳児保育を実施していないため、郊外の幼稚園に通う子どももいることから、周辺保育園等とも協議しつつ、既存の幼稚園施設で3歳児保育の実施が可能な園は、3歳児クラスの新設を進めていきたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		46
						平成26年度	平成27年度	
事業名	幼稚園施設維持修繕事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	5,382 千円	平成27年度決算	6,832 千円	平成28年度予算	8,586 千円		
事業の目的	建物の老朽化・狭隘化の改善や教育の多様化、進展著しい高度情報化などに対応しうる施設機能の充実、災害等に対する安全性の確保や省資源対策を図る。							
事業の内容	幼稚園施設を安全で良好な状態に保ち、より効率的に施設を活用するためや時代の要請に即した施設水準を確保するための維持修繕工事を実施する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施。						
	前年度の改善案方向性	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施していく。						
	26年度の取組	緊急性の高い修繕を優先とし、環境改善工事等実施した。						
検討課題	園児等が一日の大半を過ごす幼稚園施設を安全安心に保ち、時代の要請にあった施設水準を確保するために幼稚園施設の維持修繕工事を行う。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事請負費 683万2,080円（以下に主な工事内容を示す）</li> <li>排水改修・テラス改修工事（鎌田幼）、倉庫改築工事（大石幼）、トイレ改修工事（松江幼）、正門 門扉設置工事（中川幼）などを実施した。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	施設の単なる修繕工事だけでなく、幼稚園等環境改善工事（空調、シャワー設置等）、また、老朽化が深刻な状況であるため予防修繕工事（消防設備更新、高圧電気設備更新、受水槽等水道設備更新、防水工事等）について緊急性・危険性を十分考慮し実施していきたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		47
						平成26年度	平成27年度	
事業名	幼稚園管理備品整備事業				評価	A	A	
担当課	教育総務課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	5,684 千円	平成27年度決算	5,586 千円	平成28年度予算	5,827 千円		
事業の目的	幼稚園に必要な物品の購入により、多様な体験を通じて豊かな感性を育て、創造性などを豊かにすることができる。							
事業の内容	運動遊具等幼稚園教育に必要な物品の購入費等。							
複数年にわたる事業	進捗度等	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄。						
	前年度の改善案方向性	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄をしていく。						
	26年度の取組	修理等ができない備品等の買い替え、必要性等を考慮し購入、また、不要なものの廃棄をした。						
検討課題	幼稚園教育を行っていく上で必要な教材備品・運動遊具備品などの備品整備を行う。							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役務費(手数料) 52万7,000円 ピアノ調律</li> <li>・備品購入費 505万9,330円 教用器具費(折りたたみ椅子用格納台車、乾燥棚、ワイヤレスマイク、放送用屋外スピーカーほか) その他備品購入費(木製箱積木、デジタルピアノ、お道具箱整理ケース棚ほか)</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	適正な備品管理に努めたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		48
						平成26年度	平成27年度	
事業名	郷土の偉人に学ぶ教育推進事業				評価	A	A	
担当課	学校支援課	事業年度	平成23年度～継続中					
予算・決算	平成26年度決算	2,021 千円	平成27年度決算	1,054 千円	平成28年度予算	930 千円		
事業の目的	<p>将来の松阪市を担う子どもたちが、郷土の偉人たちがめざし育んできた「夢」への営みを学び、郷土に誇りと愛着を持ち、未来を切り拓いていくことができるよう「郷土の偉人」に学ぶ教育を推進する。</p>							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「郷土の偉人に学ぶ」シリーズの学習冊子を作成し、小学校高学年を中心とした授業で活用する。 ※ 4年生「①本居宣長」、5年生「②松浦武四郎」、6年生「③蒲生氏郷」</li> <li>それぞれの冊子において「指導事例集(教師用)」を作成し、教職員の研修を図るとともに、効果的な活用に繋げていく。</li> </ul>							
複数年にわたる事業	進捗度等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度: 推進協議会を発足し、「郷土の偉人」の教材化を計画する。</li> <li>平成24年度: 「郷土の偉人を知る① 本居宣長」を作成、配付</li> <li>平成25年度: 「郷土の偉人を知る② 松浦武四郎」を作成、配付</li> </ul>						
	前年度の改善案方向性	<p>子どもたちの学習活動がより効果的になるよう「指導事例集(教師用)」を作成し、指導内容の充実を図っていく。</p>						
	26年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「郷土の偉人を知る③ 蒲生氏郷」を作成、配付する。</li> <li>授業における活用をめざし、活用事例集を作成、配付する。</li> <li>「郷土教育(郷土の偉人に学ぶ教育の実践から)」を開催する。</li> </ul>						
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成された冊子を活用した学習活動の取組を充実させ、継続的・発展的に学習を進めていけるよう、具体的な方策を講じていかなければならない。</li> <li>教材化した3人以外にも、多くの偉人が各地域で顕彰されているので、各学校での学習に繋げるための方策を検討する。</li> </ul>							
27年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>家に持ち帰り、家族とともに郷土の偉人たちの生き方について、話し合う機会が持てるよう、当該児童数の冊子を再版し、個人配付を継続する。</li> <li>各学校における「郷土の偉人を知る」シリーズの活用状況を交流するため、調査を行う。</li> <li>各校での学習活動がより充実するよう「指導事例集(教師用)」を作成し配付した。</li> <li>郷土教育(郷土の偉人に学ぶ教育の実践から)を開催する。</li> </ul>							
今後の方向性・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>松阪市は、教材化した3人以外にも、様々な分野で日本や世界の発展に貢献した偉人は多い。今後、新たな偉人の教材化については、各学校での活用状況や活用する際の指導時間数等を鑑みながら、事業拡大について検討していく。</li> <li>市民等から購入希望の問合せも多く、一般向けの冊子販売について、文化課と連携し対応する。</li> </ul>							

## 4 総評

6つの夢ナビゲーション別のそれぞれの事業の評価は、前年度に比べてもいくつかの事業については向上することができました。その一方で、連続「B評価」となる事業もあり、夢ナビゲーション実現に向けて、各事業の課題を十分に検討し、改善していく必要があると考えます。

教育委員会といたしましては、28年度の教育ビジョン改定の中で現状分析を的確に行い、目標値等も明示し、委員会での議論がさらに活発となるように引き続き各種研修に参加したり、現場の声を踏まえて教育施策、事業を進めるために積極的に学校教育現場や文化施設等を訪問し、情報収集、意見交換に努めます。

## Ⅲ 教育委員会の活動状況

### 1. 委員選任状況

(平成28年3月末現在)

職名	氏名	任期
委員長	伊藤 和代	自 平成25年2月26日 至 平成29年2月25日
委員長職務代理者	山川 隆志	自 平成26年2月26日 至 平成30年2月25日
委員	鷺尾 節子	自 平成27年2月26日 至 平成31年2月25日
委員	竹内 一	自 平成28年2月26日 至 平成32年2月25日
教育長	東 博武	自 平成25年3月25日 至 平成29年3月24日

※教育委員（教育長を含む。）任期は4年間。

### 2. 会議の開催状況

	平成26年度	平成27年度
定例会	12回（毎月1回）	12回（毎月1回）
臨時会	2回	5回

### 3. 審議状況

#### ア 付議案件数

	26年度	27年度
議案	26件	28件
報告	95件	102件

#### イ 審議された主な議案等

- (1) 教育委員会規則等の制定・改正に関する事。
- (2) 人事に関する事。
- (3) 教育施策に関する基本的な方針に関する事。
- (4) 市議会に提出する予算等に関する事。
- (5) 文化財に関する事。
- (6) 審議会等委員の委嘱に関する事。
- (7) 教育委員会事務局各課の事業に関する事。
- (8) 児童生徒の問題行動等に関する事。

### 4. 研修及び学校訪問等

松阪市の児童生徒の学力向上に向けた取組を進めることを目的に福井市の教育方針や独自の取組についての聞き取りを行い、福井市立啓蒙小学校においては、学習習慣の定着を図るための工夫や板書の使用方法等の研究など学校現場での取組の聞き取りや福井市郷土歴史博物館においては、小中学校との連携等について聞き取りをいたしました。

また、呉市が進める小中一貫教育については基本理念と具体的な取組について、各中学校区の特色を生かした9年間の取り組みが、中1ギャップの解消や自尊感情の育成につながることを深く理解し、静岡県伊東市の小学校タブレット端末等のICT機器を活用しての教育の情報化の取組やジグソー学習等の先進的な授業を学び取り、先進的な取組を持ち帰り、授業におけるICT機器の効果的な活用実践や授業づくりにつながったと感じております。

視察の成果といたしましては、福井市独自の学力調査等の結果分析や課題解決に向けた取組、授業づくりの仕組み、授業実践などを参考にして松阪市における小中学校での学力向上の取組を進めていきたいと考えています。

#### その他参加した研修等

- ・平成27年度市町教育委員会研究協議会
- ・三重の教育談義
- ・第70回国民体育大会(わかやま国体)

## IV 第三者評価

### 1. 第三者評価委員

名 前	所 属 等
杉田 勝雄	元三重中京大学短期大学部教授・教学部長 (元松阪市教育ビジョン構築検討委員会委員)
梶間 裕司	松阪市社会教育委員長
殿内 裕哉	松阪市PTA 連合会会長

### 2. 第三者評価

#### 【杉田勝雄委員】

#### (1) はじめに

松阪市の教育ビジョンは「理念」「ビジョン」「重点目標」「現状認識」のマネジメントサイクルとPDCAサイクルにしたがって組織事業がなされている。ビジョンである3つの目指す子ども像の実現に向けて、重点目標としての6つの戦略で取り組みがなされた。そこで、現状認識である評価シートに基づきどこまで目指す子ども像が達成できたかを検証する。

総合的にみると、平成26・27年度はどの事業評価項目もほとんどが「A評価」であり3つの子ども像は十分に実現されている。また、どの事業においても「事業の目的・内容」が明確である。更に、「検討課題」「今後の方向性・改善案」においても的確に自己分析されており複数年度において高い達成度と進展が見られる。

#### (2) 重点目標(夢ナビポイント)検証

##### ①就学前教育の充実について

事業項目が3～6に増加し、就学前から「学力向上」「外国語教育」に取り組むことは評価に値する。特に、言語能力の臨界ポイントは6歳であることや国際化教育の早期の取組は「21世紀型能力」に通じる。

##### ②学びの基礎を育む教育の充実について

学校教育は「学習指導」と「生徒指導」の有機的な連携のもと教育の目的を達成するものである。特に、松阪市の課題である学力向上については真剣な取り組みが評価に値する。平成26・27年度とも「B評価」の「いじめ等対策事業」については取り組みの方向性は決して間違っていない。「教育支援センター推進事業」における不登校の改善率65.63%は決して低い数値ではない。

##### ③生涯学習の推進について

公民館活動を通して裾野の広い健康・文化活動が展開されていることは高齢化社会において素晴らしいことである。青少年健全育成事業は評価シートに記述されているように行政の一方的な指導には限界があり、家庭・地域との連携の基に社会全体で取り組む必要がある。学校区単位の学びと健全育成の見直しが大切である。

#### ④文化・芸術の振興について

平成27年度は全て「A評価」であり、松阪が文化と芸術の香り高い街であることが分かる。各事業において歴史・文化を大切にす高度な取組がなされ十分に評価できる。特に、色々な分野・世代において文化・芸術の創造がなされていることは歴史・文化がまさに「生きている」ということになる。

#### ⑤スポーツライフの実現について

H26年度「B評価」だった「スポーツ大会等運営事業」も「A評価」になり重点目標は十分に達成されている。市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しむ「スポーツ推進計画策定」については更に事業の進展を希望したいところである。今後、オリンピックに向けてスポーツへの関心を高め健康な生活を実現するためにも。

#### ⑥新しい教育の創造について

高額の予算の基に推進する事業で厳しい面もあるが、平成27年度は全て「A評価」であり未来への投資として評価に値する。時代の流れの中で新しい教育を創造していくためには学校教育環境の改善が大切である。事業の中に「郷土の偉人に学ぶ教育推進事業」がある。この事業は「未来を切り拓く」「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる」「学び続けよう」という3つの目指す子ども像と直結する事業であり今後も継続することが大切である。

### (3) まとめ

各課の懸命なる取組で素晴らしい成果を上げ目指す子ども像は十分に達成されていることに敬意をはらいたい。

特に、学校教育は大きな節目に差し掛かっている。学校の構造がコミュニティー・スクール化しチーム学校に変化しつつある。授業も教えられる授業から学びあうアクティブラーニングに変化しつつある。教育は21世紀型能力の追求が求められる。そこで、新しい教育ビジョンの下で時代に対応した不易流行の事業の点検が大切である。

#### 【梶間裕司委員】

ほとんどの事業も計画通り事業が達成されており、日頃の事業への取り組みへの熱意を感じます。

#### 《番号1》について

小学校での外国語活動が本格化してまいりましたが、学年も小学生3年生まで拡大の方向でありALTの増員や専科教員の配置が望まれます。また児童がより深く外国語への関心を高めるには、日頃子どもたちとのふれあいの多い担任教師の外国語への意欲関心が大きく影響すると思われまます。

#### 《番号2》について

学校教育の中で大きな位置を占める部分であるので、一層の充実を期待いたします。

#### 《番号3》について

さまざまな教育活動が教育現場に持ち込まれており、教職員の多忙化が心配されます。学校支援ボランティアなど地域の人材を活用することで少しでも教職員の負担が軽減されますことを期待します。ただこの制度が地域に十分浸透していないように思われます。またこのことで学校運営に混乱をきたす恐れも考えられますのでボランティアの方への研修や学校との意思疎通等大切と思われます。

#### 《番号8》について

少人数学級編成等の導入により子どもたちの問題行動はずいぶん減少している。しかし個々の子どもたちが多様化しており指導面で困難をきたしているようです。教員の数を増やし、少なくとも休憩時間等で教師が子どもたちと触れ合う時間を十分取れる状態ができればと感じます。

#### 《番号10》について

新しい学習機器の導入成功を祈ります。先進的に取り組まれている学校の成果や課題を整理され、全ての学校で実施できますよう希望します。

#### 《番号14, 15》について

子どもたちの中には朝から何も食わずに登校する生徒がいましたが、一日いらいらしておりました。中学校へ給食が導入されこのような子どもたちがいなくなり大変喜んでおります。

問題行動が減ってきている要因の一つと考えますので、一層の充実を図っていただきたい。

#### 《番号21》について

社会の変化に適応した公民館活動が求められている。マンネリ化しているという声が聞かれることから、地域の人々の要望や地域の抱えている課題解決に向けた公民館活動を積極的に取り入れ、より充実した活気のある活動を期待したい。

また、松阪市には、たくさんの外国籍のかたが生活してみえますがこの方々への公民館活動への参加がしやすいような取り組みも今後必要になってくると思われます。

#### 《おわりに》

今回、今日的課題に対して精力的に取り組んでみえますこと改めて気づきました。担当者の日々の取り組みに精進されていること心より敬意を表します。

## 【殿内裕哉委員】

「松阪市教育ビジョン」48の事務事業について総論として、達成度という指標で評価した場合、達成度BからAへ達成度合いの向上、全体に占める割合の改善がみられ、限られた予算の中での教育関係者の日々の努力が感じられ、評価に値すると考えられます。

しかしながら個々の事業では市民にやや達成度合いが伝わりにくいと感じられるものもあり、最終年度や完結する年度があらかじめ判明している場合などは全体的な進捗度を記載し、事業によっては数値目標をかかげ達成度を示すなど評価基準を見えやすくする必要があります。

事業別には、「教育の充実」といった観点では合併前後から継続して事業が行われているものが多く、PDCA サイクルの中で幾度か見直されているため達成度ばかりでなく、非常に有用で効果も高いと感じられます。日々の通年事業が多く、なかなか効果が表れにくいかもしれないが継続して取り組むに値すると考えます。また事業化当初からかなり経過している事業もあり、現況や関係機関と協議しながら、抜本的な見直しを行うことでさらに成果があげられるのではないかと思います。

「生涯教育」、「文化・芸術の振興」、「スポーツライフの実現」といった点では積極的に取り組む姿勢が市民にも感じられやすく、今後ますます注力を期待したいと思います。

ただし予算配分や取り組み過程では合併以前の行政区割りによる不均衡感も否めないため、今後はオール松阪を意識して取り組む必要があると考えられます。松阪市のスポーツ・文化の推進の中心として重要な役割を担っていただけるよう期待いたします。

「整備・修繕事業」関連については定常時の活動とも取られかねない事業も見受けられるため、一定の成果がみられた後は、評価対象事業として取り上げる必要はないと感じます。また財政上の理由から予算化が難しい事業もあると思われます。予算化は非常に事業執行において重要と思いますので、評価の一部として加えるのもよいかもしれません。

最後になりますが多様化する社会の中で子どもたちの教育環境がより充実し、市民みなで松阪市を誇りに思えるように事業展開していただきますよう、引き続き宜しく願いいたします。

## V おわりに

平成19年度から実施している教育委員会の点検・評価ですが、毎年「松阪市教育ビジョン」に基づき中・長期的な視点に立って、本市の教育振興のための施策を着実に実現できるように各所管が目標を掲げ、事業展開を行っております。

今回第三者評価委員の方から、教育施設整備の進捗管理や次期学習指導要領の内容を踏まえた事業展開の推進についてご指摘を受けました。また、事業評価については概ね良好であるが、事業によっては数値目標をかかげ達成度を示すなど評価基準を見えやすくする必要についてご指摘を受けました。

平成29年度から実施の「松阪市教育ビジョン」の具現化を図っていくためにも、市民にとってわかりやすい事業展開を図るとともに、引き続き効果的な教育行政の推進に努めてまいります。